

[修士課程]

授業科目及び講義要項

講義科目履修モデルについて

修士課程での学習と研究をより適切に推進するため履修計画策定の参考になるよう、講義科目履修モデルを次の8モデルとする。

(1) 講義科目履修モデル

- ① 「組織マネジメント」
- ② 「マーケティングマネジメント」
- ③ 「企業・社会マネジメント」
- ④ 「会計ファイナンスマネジメント」
- ⑤ 「情報マネジメント」
- ⑥ 「教育マネジメント」
- ⑦ 「心理マネジメント」
- ⑧ 「医療マネジメント」

(2) 各履修モデルの趣旨

① 「組織マネジメント」モデル

経営者や管理者などのマネジャーとして、組織をどのように運営していけば良いのかに興味を持つ者を対象とする。マネジャーが取り組む組織やチーム、集団等のマネジメントに関する専門知識を、経営学分野および心理学分野にまたがって習得していく。さらに、マネジャーが直接的にマネジメントする組織だけではなく、組織をつうじて間接的にアプローチする外部環境（顧客や競合企業等）との関係性構築に関わる専門知識までを対象とする。

② 「マーケティングマネジメント」モデル

企業等がその外部環境である顧客や他企業とどのような関係性を構築していくことで競争優位を獲得していくことができるのかに興味を持つ者を対象とする。経営者や管理者などのマネジャーが競争優位を獲得するために取り組む、顧客および競合企業等との関係性構築のマネジメントについて重点的に学ぶ。特に、マーケティング論、競争戦略論の分野における議論に力点をおきながら、関連する経営管理に関する知見および心理学分野の専門知識を合わせて習得し、競争優位獲得のためのマネジメントを総合的に学ぶ。

③ 「企業・社会マネジメント」モデル

社会的な存在としての企業や団体がどのような行動を取っていくべきか、どうあるべきかについて興味を持つ者を対象とする。経営者などとしての視点から企業・団体の経営を検討するだけでなく、より俯瞰的な視点から企業・団体のあるべき姿を探求していく。特に、社会において企業が望ましい経営を行うためにどのようなガバナンスを必要とするのか、よりマクロな流通や金融のシステムの中で企業・団体がどのような行動、あり方をすべきか等について、経営学の専門的知見を幅広く横断的に習得していく。

④ 「会計ファイナスマネジメント」モデル

経営組織における会計情報の活用とファイナンスについて問題意識をもち、専門的に学びたい者、あるいは学際的に学びたい者を対象とする。具体的には、企業などで会計・税務・原価計算・監査などの専門業務を担当する者、ファイナンス部門の担当者、トップマネジメントを支援する経営企画部門の担当者、生産や営業の現場で計数管理の責任を担う者、税理士・会計士志望者、さらには広く会計やファイナンスに問題意識をもち、関心のある者である。

「専門的に学ぶ」とは、会計が、企業などの経済主体やその中での人々の経営活動を会計固有の測定メカニズムに従ってさまざまな数値に写し取る行為であることから、その固有のメカニズムを一定のパラダイムのなかで求められる会計の役割・機能との関係で専門的にアプローチし、研究することを意味する。また、「学際的に学ぶ」とは、会計によって生み出された数値が、企業のファイナンスや経営戦略、株主や取引先・従業員などの企業内外の関係者の行動、企業内の人事、企業の内部組織やグループ組織の設計など、広範囲にときに決定的に企業の盛衰に影響を与え、かつその影響が双方向の性格をもつことから、専門の垣根をはらって他分野(組織経営、組織情報、組織心理)の知見との融合をめざして学際的にアプローチし、研究することを意味する。

⑤ 「情報マネジメント」モデル

経営組織における情報の活用について学びたい方を対象とする。具体的には、経営情報システムや意思決定支援システムなど、システム的な思考に関心のある方、コンピュータやネットワークといった情報通信技術(ICT)の知識を深め、それらを経営組織に活用することに関心のある方、情報という視点に立ち、組織においてどのように情報を管理、蓄積、伝達、発信したら良いかを考察したい方に適している。

⑥ 「教育マネジメント」モデル

対象は広く教育に関わる者とする。具体的には、学校の教職員(看護教員を含む)や企業内教育担当者、教育行政に関わる自治体職員、PTA活動等に関心のある主婦などを想定している。主として学習、発達、臨床、障害といった教育心理学領域の専門的知識を修得させ、それらの知見をいかに教育的な組織・集団のマネジメントへと活用するかを、経営学領域の科目も併せて履修させることによって考察させる。

⑦ 「心理マネジメント」モデル

対象は広く人間の社会的な行動や心理に関心を持つ者とする。具体的には、様々な組織で人事労務管理を担当する者あるいはそのあり方に問題意識を持つ者、また消費者の選択行動を予測してマーケティングや広告宣伝に活かそうとする者、その他集団内での個人の行動や対人関係における心理的プロセスに関心を持つ者などを想定している。主として組織や社会、意思決定、認知過程といった心理学領域の専門的知識を修得させるとともに、経営学やマーケティングに関する知見も併せて得させることによって、人間の社会的な行動をマネジメントできる視座を培う。

⑧ 「医療マネジメント」モデル

対象者を現職の看護師、助産師、保健師、および看護教員に限定し、大病院のみならず、広く中堅・中小病院の看護師長、看護部長、あるいはそれに準ずる看護の職責にある者の学習ニーズに応えることを目的としている。大学病院では、博士課程進学希望者も視野に入れている。

具体的には、看護実務については自信があるが、「人を管理する立場」になり、人的資源管理の難しさを実感している、同時に自分の将来のキャリアについて問題意識を持っている、また、医療の在り方あるいは病院経営などについて疑問を持っており、客観的に研究したいという問題意識を持っている、あるいは、看護師の師長あるいは部長などへの昇格基準として、資格保有が求められているといった状況にも対応しうる履修モデルになっている。

(3) 医療マネジメント履修モデルの講義科目

A 組織経営

経営管理論特殊講義

経営組織論特殊講義

非営利事業論特殊講義

マーケティング・マネジメント特殊講義

《医療マネジメント対象科目》

医療機関の経営戦略（組織経営特殊講義Ⅰ） —「医療機関の経営者論」—

医療現場の実務と管理職（組織経営特殊講義Ⅱ） —看護部長・看護師長の仕事—

保健医療福祉政策論（組織経営特殊講義Ⅲ）

B 組織心理

認知心理学特殊講義

行動意思決定論特殊講義

臨床心理学特殊講義

《医療マネジメント対象科目》

医療機関の心理学（組織心理特殊講義Ⅰ）

医療組織の人的資源管理（組織心理特殊講義Ⅱ）

医療マネジメント対象科目は医療従事者（看護師・助産師・保健師，看護教員に限定）を対象とする。

経営学研究科修士課程講義科目履修モデル表（各2単位）

開講科目	担当者名	組織マネジメント	マーケティングマネジメント	企業・社会マネジメント	会計・ファイナンスマネジメント	情報マネジメント	教育マネジメント	心理マネジメント	医療マネジメント
アカデミック・リサーチ	複数の教員	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎
経営学原理特殊講義	澤野 雅彦	○		◎		○			
経営管理論特殊講義	佐藤 大輔	◎	○		○	○	○	○	○
経営組織論特殊講義	大平 義隆	◎				○	○	○	○
経営戦略論特殊講義	今野 喜文	○	◎	◎	○	○			
国際経営論特殊講義	菅原 秀幸	◎		○					
企業行動論特殊講義	石井 耕		◎	◎					
現代企業論特殊講義	石嶋 芳臣			◎	○	○			
企業と社会特殊講義	春日 賢			◎					
マーケティング・マネジメント特殊講義	伊藤 友章	○	◎			○	○	○	○
マーケティング・コミュニケーション特殊講義	下村 直樹		◎					○	
流通システム論特殊講義	佐藤 芳彰		◎	○					
ファイナンス論特殊講義	赤石 篤紀		○	○	◎				
非営利事業論特殊講義	菅原 浩信			◎	○				○
医療機関の経営戦略（組織経営特殊講義Ⅰ）	石井 耕								◎
会計学特殊講義	庄司 樹古				◎				
財務会計論特殊講義	高木 裕之			○	◎				
管理会計論特殊講義	内田 昌利	○			◎				
原価計算特殊講義	今村 聡				◎				
経営情報論特殊講義	天笠 道裕				○	◎			
情報システム論特殊講義	関 哲人		○		○	◎			
情報コミュニケーション論特殊講義	福永 厚					◎	○	○	
情報処理論特殊講義	上田 雅幸					◎			
組織心理学特殊講義	増地あゆみ	◎			○	○	○	◎	
行動意思決定論特殊講義	鈴木 修司	◎	◎				○	◎	○
学習心理学特殊講義	佐藤 淳	○					◎	○	
発達心理学特殊講義	小島 康次	◎					◎	○	
認知心理学特殊講義	浅村 亮彦	○	○				○	◎	○
心的障害マネジメント特殊講義	田村 卓哉						◎	◎	
医療組織の心理学（組織心理特殊講義Ⅰ）	増地あゆみ								◎
医療機関の人的資源管理（組織心理特殊講義Ⅱ）	溝部 佳代								◎

授業科目・単位数及び担当者一覧 [修士課程] 【2017（平成29）年度以降入学生】

	授業科目	単位数	担当者	備考
	アカデミック・リサーチ	2	複数の教員	
組織経営関連科目	経営学原理特殊講義	2		
	経営学原理特殊講義演習Ⅰ	4	澤野 雅彦	
	経営学原理特殊講義演習Ⅱ	4		2年次開講
	経営管理論特殊講義	2		
	経営管理論特殊講義演習Ⅰ	4	佐藤 大輔	
	経営管理論特殊講義演習Ⅱ	4		2年次開講
	経営組織論特殊講義	2		
	経営組織論特殊講義演習Ⅰ	4	大平 義隆	
	経営組織論特殊講義演習Ⅱ	4		2年次開講
	経営戦略論特殊講義	2		
	経営戦略論特殊講義演習Ⅰ	4	今野 喜文	
	経営戦略論特殊講義演習Ⅱ	4		2年次開講
	国際経営論特殊講義	2		
	国際経営論特殊講義演習Ⅰ	4	菅原 秀幸	
	国際経営論特殊講義演習Ⅱ	4		2年次開講
	企業行動論特殊講義	2	石井 耕	
	現代企業論特殊講義	2		
	現代企業論特殊講義演習Ⅰ	4	石嶋 芳臣	
	現代企業論特殊講義演習Ⅱ	4		2年次開講
	企業と社会特殊講義	2		
	企業と社会特殊講義演習Ⅰ	4	春日 賢	
	企業と社会特殊講義演習Ⅱ	4		2年次開講
	マーケティング・マネジメント特殊講義	2		
	マーケティング・マネジメント特殊講義演習Ⅰ	4	伊藤 友章	
	マーケティング・マネジメント特殊講義演習Ⅱ	4		2年次開講
	マーケティング・コミュニケーション特殊講義	2		
	マーケティング・コミュニケーション特殊講義演習Ⅰ	4	下村 直樹	
	マーケティング・コミュニケーション特殊講義演習Ⅱ	4		2年次開講
	流通システム論特殊講義	2		
	流通システム論特殊講義演習Ⅰ	4	佐藤 芳彰	
	流通システム論特殊講義演習Ⅱ	4		2年次開講
	ファイナンス論特殊講義	2		
	ファイナンス論特殊講義演習Ⅰ	4	赤石 篤紀	
ファイナンス論特殊講義演習Ⅱ	4		2年次開講	
非営利事業論特殊講義	2			
非営利事業論特殊講義演習Ⅰ	4	菅原 浩信		
非営利事業論特殊講義演習Ⅱ	4		2年次開講	
医療機関の経営戦略（組織経営特殊講義Ⅰ）	2	石井 耕		

(次項につづく)

(前項より)

	授業科目	単位	担当者名	備考
組織情報関連科目	会計学特殊講義	2		
	会計学特殊講義演習 I	4	庄司 樹古	
	会計学特殊講義演習 II	4		2 年次開講
	財務会計論特殊講義	2		
	財務会計論特殊講義演習 I	4	高木 裕之	
	財務会計論特殊講義演習 II	4		2 年次開講
	管理会計論特殊講義	2	内田 昌利	
	原価計算特殊講義	2	今村 聡	
	経営情報論特殊講義	2		
	経営情報論特殊講義演習 I	4	天笠 道裕	
	経営情報論特殊講義演習 II	4		2 年次開講
	情報システム論特殊講義	2		
	情報システム論特殊講義演習 I	4	関 哲人	
	情報システム論特殊講義演習 II	4		2 年次開講
	情報コミュニケーション論特殊講義	2		
	情報コミュニケーション論特殊講義演習 I	4	福永 厚	
	情報コミュニケーション論特殊講義演習 II	4		2 年次開講
	情報処理論特殊講義	2		
	情報処理論特殊講義演習 I	4	上田 雅幸	
	情報処理論特殊講義演習 II	4		2 年次開講
組織心理関連科目	組織心理学特殊講義	2		
	組織心理学特殊講義演習 I	4	増地あゆみ	
	組織心理学特殊講義演習 II	4		2 年次開講
	行動意思決定論特殊講義	2		
	行動意思決定論特殊講義演習 I	4	鈴木 修司	
	行動意思決定論特殊講義演習 II	4		2 年次開講
	学習心理学特殊講義	2		
	学習心理学特殊講義演習 I	4	佐藤 淳	
	学習心理学特殊講義演習 II	4		2 年次開講
	発達心理学特殊講義	2	小島 康次	
	認知心理学特殊講義	2		
	認知心理学特殊講義演習 I	4	浅村 亮彦	
	認知心理学特殊講義演習 II	4		2 年次開講
	心的障害マネジメント特殊講義	2		
	心的障害マネジメント特殊講義演習 I	4	田村 卓哉	
	心的障害マネジメント特殊講義演習 II	4		2 年次開講
医療組織の心理学 (組織心理特殊講義 I)	2	増地あゆみ		
医療機関の人的資源管理 (組織心理特殊講義 II)	2	溝部 佳代		
論文指導	論文指導 I	2	各担当教員	開講せず
	論文指導 II	2		開講せず

授業科目・単位数及び担当者一覧 [修士課程] 【2016（平成28）年度以前入学生】

	授業科目	単位数	担当者	備考
	アカデミック・リサーチ	2	複数の教員	
組織 経営 関連 科目	経営学原理特殊講義	2		
	経営学原理特殊講義演習Ⅰ	4	澤野 雅彦	
	経営学原理特殊講義演習Ⅱ	4		2年次開講
	経営管理論特殊講義	2		
	経営管理論特殊講義演習Ⅰ	4	佐藤 大輔	
	経営管理論特殊講義演習Ⅱ	4		2年次開講
	経営組織論特殊講義	2		
	経営組織論特殊講義演習Ⅰ	4	大平 義隆	
	経営組織論特殊講義演習Ⅱ	4		2年次開講
	経営戦略論特殊講義	2		
	経営戦略論特殊講義演習Ⅰ	4	今野 喜文	
	経営戦略論特殊講義演習Ⅱ	4		2年次開講
	国際経営論特殊講義	2		
	国際経営論特殊講義演習Ⅰ	4	菅原 秀幸	
	国際経営論特殊講義演習Ⅱ	4		2年次開講
	企業行動論特殊講義	2	石井 耕	
	現代企業論特殊講義	2		
	現代企業論特殊講義演習Ⅰ	4	石嶋 芳臣	
	現代企業論特殊講義演習Ⅱ	4		2年次開講
	企業と社会特殊講義	2		
	企業と社会特殊講義演習Ⅰ	4	春日 賢	
	企業と社会特殊講義演習Ⅱ	4		2年次開講
	マーケティング・マネジメント特殊講義	2		
	マーケティング・マネジメント特殊講義演習Ⅰ	4	伊藤 友章	
	マーケティング・マネジメント特殊講義演習Ⅱ	4		2年次開講
	マーケティング・コミュニケーション特殊講義	2		
	マーケティング・コミュニケーション特殊講義演習Ⅰ	4	下村 直樹	
	マーケティング・コミュニケーション特殊講義演習Ⅱ	4		2年次開講
	流通システム論特殊講義	2		
	流通システム論特殊講義演習Ⅰ	4	佐藤 芳彰	
	流通システム論特殊講義演習Ⅱ	4		2年次開講
	ファイナンス論特殊講義	2		
ファイナンス論特殊講義演習Ⅰ	4	赤石 篤紀		
ファイナンス論特殊講義演習Ⅱ	4		2年次開講	
非営利事業論特殊講義	2			
非営利事業論特殊講義演習Ⅰ	4	菅原 浩信		
非営利事業論特殊講義演習Ⅱ	4		2年次開講	
医療機関の経営戦略（組織経営特殊講義Ⅰ）	2	石井 耕		

(次項につづく)

(前項より)

	授業科目	単位数	担当者	備考
組織情報関連科目	会計学特殊講義	2	庄司 樹古	
	会計学特殊講義演習 I	4		
	会計学特殊講義演習 II	4		2 年次開講
	財務会計論特殊講義	2	高木 裕之	
	財務会計論特殊講義演習 I	4		
	財務会計論特殊講義演習 II	4		2 年次開講
	管理会計論特殊講義	2	内田 昌利	
	原価計算特殊講義	2	今村 聡	
	経営情報論特殊講義	2	天笠 道裕	
	経営情報論特殊講義演習 I	4		
	経営情報論特殊講義演習 II	4		2 年次開講
	情報システム論特殊講義	2	関 哲人	
	情報コミュニケーション論特殊講義	2	福永 厚	
	情報コミュニケーション論特殊講義演習 I	4		
	情報コミュニケーション論特殊講義演習 II	4		2 年次開講
	情報処理論特殊講義	2	上田 雅幸	
組織心理関連科目	組織心理学特殊講義	2	増地あゆみ	
	組織心理学特殊講義演習 I	4		
	組織心理学特殊講義演習 II	4		2 年次開講
	行動意思決定論特殊講義	2	鈴木 修司	
	行動意思決定論特殊講義演習 I	4		
	行動意思決定論特殊講義演習 II	4		2 年次開講
	学習心理学特殊講義	2	佐藤 淳	
	学習心理学特殊講義演習 I	4		
	学習心理学特殊講義演習 II	4		2 年次開講
	発達心理学特殊講義	2	小島 康次	
	認知心理学特殊講義	2	浅村 亮彦	
	認知心理学特殊講義演習 I	4		
	認知心理学特殊講義演習 II	4		2 年次開講
	心的障害マネジメント特殊講義	2	田村 卓哉	
	心的障害マネジメント特殊講義演習 I	4		
	心的障害マネジメント特殊講義演習 II	4		2 年次開講
	医療組織の心理学 (組織心理特殊講義 I)	2	増地あゆみ	
	医療機関の人的資源管理 (組織心理特殊講義 II)	2	溝部 佳代	
論文指導	論文指導 I	2	各担当教員	
	論文指導 II	2		

アカデミック・リサーチ 2単位

複数の教員

【テーマ】

社会科学におけるアカデミックな研究方法の修得

【授業の到達目標】

多様な研究方法を知ることをつうじて、自らの問題意識に基づいた研究を進める際に、適切な研究方法を選択し、それを実践することができるようになることを目標とする。

【授業概要】

研究生を送る上で必要な研究の方法、論文の書き方等について具体的に学ぶ。特に、実証的なアプローチをとる学生にとって、より具体的な研究方法に関する基本的な知識の修得を目指す。多様な研究方法を、各分野の専門家である教員によってオムニバスで解説していく。

【授業計画】

1. イントロダクション—「アカデミック・リサーチ」の目的
2. 研究生の送り方
3. 文献検索の方法
4. 論文の読み方
5. 論文の書き方
6. 質的研究の方法—ケース・スタディの方法
7. 量的研究の方法Ⅰ—統計的な分析方法の基礎
8. 量的研究の方法Ⅱ—質問票調査によるサーベイ①(心理学)
9. 量的研究の方法Ⅲ—質問票調査によるサーベイ②(経営学)
10. 量的研究の方法Ⅳ—公刊資料に基づくサーベイ
11. 実験による研究方法
12. 歴史的研究の方法
13. 学説研究の方法Ⅰ—実践的事例から学ぶ
14. 学説研究の方法Ⅱ—学説研究の原理から学ぶ
15. 理論的研究の方法

【準備学習の内容】

各セッションの担当教員はLMS(旧GOALS)上に掲載されます。担当教員から示されるリーディングス等がある場合、事前にレポート等指定された課題を持参して講義に参加すること。

【課題に対するフィードバック】

報告・発表の際に適宜コメントする。

【テキスト】

全体を通じたテキストは指定しませんが、必要な文献があれば各講義担当者から紹介されます。

【参考文献】

各講義担当者から、必要に応じて紹介されます。

【成績評価】

出席状況や議論への積極的な参加程度などを総合的に判断して評価します。

【その他】

特になし。

経営学原理特殊講義

2 単位

澤野雅彦

【テーマ】

経営学の方法としての経営人類学

【授業の到達目標】

経営学的思考方法を理解し、修士論文を書く準備が整うこと。

【授業概要】

テキストを使い、順番にレポートしてもらいながら、コメント・質問を出し合い議論する。議論のなかで、経営学の視点から解説を行い、少しずつ経営学的思考方法に慣れてもらう。

【授業計画】

- 第1回 インTRODクシヨN
- 第2回 会社神話と経営人類学
- 第3回 レストラン三笠会館の創業神話と会社儀礼
— 「行持」と「行事」, 「修行」と「修業」の
対応関係をめぐって
- 第4回 信仰と事業の「共信共栄」神話 — 近江兄弟
社の創業と再生
- 第5回 葬儀社の創業神話 — 社史にみる非・葬儀の
ルーツ
- 第6回 「鬼」と「魔女」の会社神話 — 日紡貝塚バレー
ボール部
- 第7回 「損して得とれ」の会社神話 — スケープゴート
から英雄へ
- 第8回 国産ウイスキーをめぐる会社「神話」— 一つ
の歴史, 二つの物語
- 第9回 価値表明の「憲章」としての「会社神話」—
サントリーの「やってみなはれ」
- 第10回 「手作り神話」と技術革新 — 伏見酒造業の事
例
- 第11回 マクドナルドをめぐる神話
- 第12回 オーケストラの神話 — つくり, つくられる
名指揮者
- 第13回 英国ヴィクトリア・アルバート博物館の新しい
英国展示 — 博物館学から神話学へ
- 第14回 経営学と人類学
- 第15回 まとめ

【準備学習の内容】

経営学・経済学・社会学・心理学などを、学んだこと

があり,その研究方法を理解していることが望ましい。

【課題に対するフィードバック】

報告・発表の際に適宜コメントする。

【テキスト】

日置弘一郎・中牧弘允〔編〕2012『会社神話の経営人類学』などを使う予定。上記はこの本を使った場合の授業計画例である。

【参考文献】

適宜指示する。

【成績評価】

平常点。

【その他】

特になし。

経営学原理特殊講義演習Ⅰ 4単位
経営学原理特殊講義演習Ⅱ 4単位
論文指導Ⅰ/論文指導Ⅱ 2単位/2単位
澤野雅彦

【テーマ】

経営学の研究方法に関する考察

【授業の到達目標】

本演習では、経営学原理特殊講義と連動して、各自の修士論文作成を支援する。テーマの設定、文献の収集、論文の読み方、研究の方向などを考え、どうすれば経営学的な論文が作成できるかについて理解できるようになること。

【準備学習の内容】

経営学原理特殊講義を受講していること。

【課題に対するフィードバック】

報告・発表の際に適宜コメントする。

【テキスト】

各自が修士論文で使う文献等がテキストとなる。

経営管理論特殊講義 2単位

佐藤大輔

【テーマ】

組織における創造性のマネジメント

【授業の到達目標】

受講者自身が実践者として組織における創造性のマネジメントに挑戦できるようになることが目標です。より具体的に、個人レベルでどのような理解のメカニズムがあるのか、その理解を促すために組織レベルでどのような取り組みが可能なのかを自ら考えだすことができるようになることを目指します。

【授業概要】

- なぜ、人は「自律的」に行為しないのでしょうか。
- どうすれば、新しい「アイデア」を生み出せるのでしょうか。
- なぜ、相手は「分かって」くれないのでしょうか。

これらのような問いは、ビジネスの場であればプライベートな場であれ、私たちが日常的に直面しているものです。この講義では、私たちが日常生活の中で現実的に直面するこれらの問いに対する答え（仮説）を探りながら議論を展開していきます。

経営学は、いわば人の行為に関する学問だということができます。働かない人を働くようにさせる、買ってくれない人に買ってもらえるようにする、という経営上の問いは、結局、人々の行為（働く・買う）をどう変えることができるかという問題として捉えることができます。この講義では、この行為を変えるためのアプローチとして、「管理」と「マネジメント」という2つの方法を紹介します。他者（上司やマネジャー）が当事者の行為に直接影響を与えることで短期的に成果を得ようとする「管理」に対して、「マネジメント」は当事者の行為の背景に潜む認識までも考慮することで、長期的・本質的に行為を変えていこうとする取り組みです。いうまでもなく、どちらのアプローチも欠かすことのできない重要なものですが、「管理」だけでは最初に挙げたような問題を解決することができません。例えば、「管理」によって部下を説得的に働かせることができたとしても、働かされる当事者は自分でその仕事をやりたいとまでは考えていないために、自律的に働くことはないかも知れません。その結果、彼は他人の視点で働くことになり、もしかしたら無責任な行動をとってしまうかも知れないのです。これでは結局、その人を十分に管理できているとはいえないで

しょう。そこで、この講義では「マネジメント」という方法のメリットに注目し、「管理」だけでは扱いきれないこのような問題をどう解決できるのかを考えていきます。

【授業計画】

1. 経営学と組織理論
2. 行為の理論としての経営学
3. 合理性と創造性の経営—管理とマネジメント
4. 合理性を追求する管理Ⅰ—モチベーションと期待理論
5. 合理性を追求する管理Ⅱ—グループダイナミクスとリーダーシップ
6. 合理性を追求する管理Ⅲ—組織構造とライン・アンド・スタッフ組織
7. 合理性を追求する管理Ⅳ—管理的なマーケティング
8. 管理からマネジメントへⅠ—コンティンジェンシー理論
9. 管理からマネジメントへⅡ—戦略的選択論
10. 創造性のマネジメントⅠ—組織学習
11. 創造性のマネジメントⅡ—組織的知識創造
12. 創造性のマネジメントⅢ—組織認識論
13. 創造性のマネジメントⅣ—理解の構造
14. 創造性のマネジメントⅢ—反省的实践
15. 創造性のマネジメントⅢ—「研究」の方法

【準備学習の内容】

指定された参考資料やリーディングスがある場合には、それらを熟読した上で講義に参加してください。

【課題に対するフィードバック】

報告・発表の際に適宜コメントする。

【成績評価】

議論への積極的な参加程度などを総合的に判断して評価します。

【テキスト】

テキストは指定しませんが、必要な文献は適宜講義中に紹介します。

【参考文献】

- 加護野 (1988) 『組織認識論』千倉書房
- Mintzberg, H., Ahlstrand, B., and Lampel, J. (1998), *Strategy Safari; A Guided Tour through the Wilds of Strategic Management*, Free Press. (齋藤嘉則監訳『戦略サファリ』東洋経済新報社, 1999)
- Nonaka, I. and Takeuchi, H. (1995), *The Knowledge-*

Creating Company: How Japanese Companies Create the Dynamics of Innovation, Oxford University Press. (梅本訳『知識創造企業』東洋経済, 1996)

Weick, K. E. (1995), *Sensemaking in Organizations*, Sage Publications. (遠田・西本訳『センスメイキング・イン・オーガニゼーションズ』文真堂, 2001)

【その他】

特になし。

経営管理論特殊講義演習 I 4 単位
経営管理論特殊講義演習 II 4 単位
論文指導 I / 論文指導 II 2 単位 / 2 単位

佐藤大輔

【テーマ】

組織における創造性のマネジメント

【授業の到達目標】

受講者自身が実践者として組織における創造性のマネジメントに挑戦できるようになることが目標です。より具体的に、個人レベルでどのような理解のメカニズムがあるのか、その理解を促すために組織レベルでどのような取り組みが可能なのかを自ら考えだすことができるようになることを目指します。

【授業概要】

私たちはふつう何らかの組織に所属し、その中で様々なアイデアや行為を生み出しています。逆説的に、どこにも所属せずにたったひとりで生きるということは、現実的にはありえません。それゆえ、組織について考える組織理論や経営学は、いわば私たちの生活や人生そのものを考える学問ともいえます。一般に、経営学といえば企業やビジネスの場で利益を最大化するための方法を探求する学問として捉えられることが少なくありませんが、このような考え方にもとづいて展開されてきた合理性を追求する経営学は、既に数多くの批判にさらされており、その限界を露呈しています。ビジネスかプライベートかを分けることは経営学にとってはや重要ではなく、むしろ私たちの日常生活や人生において組織や行為をどのように扱っていけばいいのかを考える事こそが重要になってきているのです。それゆえ、ここで扱われる経営学は企業にかかわらず、学校や家庭、その他の組織一般において人々の行為や、その背景にある認識をどのように扱うことができるかを探求します。そして、このような議論の中で、厳密な意味での「理解」が重要であり、その方法として私たちは「研究」を行わなければならないという仮説を共有します。そして、このような土台の上で、各自の問題意識に基づいた実証研究や理論構築に取り組んでもらうつもりです。

【授業計画】

1. 教育とマネジメント
2. 自律性への注目―「やらなければならない」と「やりたい」こと
3. 合理性と創造性
4. 管理からマネジメントへ

5. 行為の理論

【準備学習の内容】

指定された参考資料やリーディングスがある場合には、それらを熟読した上で講義に参加してください。

【課題に対するフィードバック】

報告・発表の際に適宜コメントする。

【成績評価】

議論への積極的な参加程度などを総合的に判断して評価します。

【テキスト】

テキストは指定しませんが、必要な文献は適宜講義中に紹介します。

【参考文献】

- Burrell, G. and Morgan, G. (1979), *Sociological Paradigms and Organisational Analysis*, Heinemann. (野中他訳『組織理論のパラダイム』千倉書房, 1986)
- Lave, J. and Wenger, E. (1991) *Situated Learning: Legitimate Peripheral Participation*, Cambridge University Press. (佐伯胖訳 (1993)『状況に埋め込まれた学習』産業図書.)
- Lewin, K. (1948) *Resolving Social Conflict*, Harper & Brothers. (末長俊郎訳 (1954)『社会的葛藤の解決』創元新社)
- Poanly, M. (1966) *The Tacit Dimension*, Routledge & Kegan Paul. (佐藤敬三訳 (1980)『暗黙知の次元』紀伊國屋書店.)
- Reboul, O. (1980) *Qu'est-ce Qu'apprendre?* Presses Universitaires de France. (石堂常世・梅本洋訳 (1984)『学ぶとは何か―学校教育の哲学』勁草書房.)
- Schön, D. (1983) *The Reflective Practitioner: How Professionals Think in Action*, Basic Books. (柳沢晶一・三輪建二訳 (2007)『省察的实践とは何か―プロフェッショナルの行為と思考』鳳書房.)

【その他】

特になし。

経営組織論特殊講義

2 単位

大 平 義 隆

【テーマ】

人間組織のメカニズムを解明する

【授業の到達目標】

受講者は、この授業を通し、メンバーの組織への巻き込みの重要性を理解したうえで、いかに組織目的に組織メンバーを巻き込むか、自身の属する組織にとって有用な手法をいくつか身につけることができているだろう。またおこなわれている手法を客観的に学ぶことができたため必要な改善を施す能力を身に着けているだろう。

【授業概要】

この講義は、受講者が日頃抱いている、関わり合いのある組織における種々の問題、組織に存在している興味関心に対して何らかの解決の糸口、または理解のきっかけを見いだすことを目的にしている。このため、組織に関わる様々な知識を確認していくことが第一の目標である。ここでは、ロビンスの「組織行動のマネジメント」をテキストとして、組織行動論の理論展開を借り、組織理解の知識を獲得する。つぎに、組織論をパラダイムの観点を学ぶ。ここでは、高橋他の「経営組織論の基礎」などをテキストに、機能主義的組織論、解釈主義的組織論、この二つを学ぶ。最後に、組織論の基礎の確認と現代的課題をさぐる。ここでは、大月他の「経営組織」などをテキストに、組織の合理性、組織化のプロセス、組織デザイン、組織変革などを学びながら現代的な課題を探っていく。

この講義では、時事的な問題を課題としたり、授業途中で重大問題に関しては討論を行い、様々な意見を刺激を知識獲得の糧ともしていきたい。

【授業計画】

1. 組織行動論
2. 組織の中の個人
3. 動機付け
4. 意志決定
5. 組織の中の勇断
6. 集団
7. チーム
8. コミュニケーション
9. リーダーシップ
10. コンフリクト

11. 組織のシステム
12. 組織構造
13. 組織文化
14. 組織変革
15. 変革期の組織マネジメント

【準備学習の内容】

受講者は、この授業の目的を、組織目的に組織メンバーを巻き込んでいくことであることを理解し、日ごろ具体的にかかわりのある組織活動を意識的に観察把握しておくことを求める。

【課題に対するフィードバック】

報告・発表の際に適宜コメントする。

【成績評価】

1. 授業課題の達成具合
2. レポートなどの課題達成具合

【テキスト】

ステファン・P・ロビンス「新版組織行動のマネジメント」ダイヤモンド社、2009年。

大平義隆編著「変革期の組織マネジメント」同文館、2006年。

……これら以外は、授業時に指示することになる。

経営組織論特殊講義演習Ⅰ 4単位
経営組織論特殊講義演習Ⅱ 4単位
論文指導Ⅰ/論文指導Ⅱ 2単位/2単位
大平義隆

【テーマ】

自らが関わる人間組織のメカニズムを解明する

身近にある、または自らが属する組織の一つを研究の対象として、当該組織に対して抱く興味を切り口に、それがいかなるものであるかをできる限り明確にする。そして、明確になった部分を、それがどのようなものであるかわかりやすく記述することを演習の目標とする。演習では、この目標が達成されるよう、指導が行われる。

共通して基礎的な分析ツールを確実にすることが課題となる(経営組織論特殊講義)。そのうえで個々の院生の対象となる組織の特質にあわせて個別の課題に取り組みなければならない。

演習の基礎的な研究活動のサイクルは、興味―探索―発見―記述―報告(興味…)となる。また、理論と実際にどの様に結びつけるか、漠然とした問題意識をどの様に表現するか、こうした点を課題としながら個々の研究が行われる。

【授業の到達目標】

受講者はテーマにした組織問題を、そのメカニズムを研究理解することを通して明確にし、さらに問題解決の工夫を提案することができるようになる。

【準備学習の内容】

経営組織論、経営管理論、経営行動論の基礎と応用を十分に学ぶこと。興味ある拡張する分野、例えば組織心理学、組織社会学、社会心理学の基礎をできれば学んでおいてほしい。加えて日米の集団、組織における相互作用と制度の違いを認識し、その差異を形成するメカニズムを理解しておくこと。

【課題に対するフィードバック】

報告・発表の際に適宜コメントする。

【テキスト】

大平義隆編著「変革期の組織マネジメント」同文館、2006年。

松本芳男編著「経営組織の基本問題」八千代出版、2003年。

……これ以外は、授業時に指示することになる。

経営戦略論特殊講義 2単位

今野喜文

【テーマ】

経営戦略論の基本を学ぶ

【授業の到達目標】

経営戦略論における理論の基本を修得すること

【授業概要】

本講義では、経営戦略論の基本的な考え方を修得するとともに、具体的なケースを検討する中で現代企業が直面するさまざまな問題に焦点をあて、その解決策について考えることにしたい。

【授業計画】

- 第1回 オリエンテーションと担当教員によるテキストの概要説明
- 第2回 担当教員による講義：経営学発展の系譜（経営学の誕生から1930年代）
- 第3回 担当教員による講義：経営学発展の系譜（1930年代から経営戦略論の誕生）
- 第4回 戦略とは何か
- 第5回 外部環境の変化と不確実性
- 第6回 競争優位を確立するための内部資源と変化要因の活用
- 第7回 事業戦略の立案
- 第8回 事業戦略：コンテキストと特殊課題
- 第9回 全社戦略のダイナミクス
- 第10回 全社レベルの戦略オプション
- 第11回 グローバル戦略の立案
- 第12回 戦略の実行とコントロール
- 第13回 ケース討論1（アジア企業のケース）
- 第14回 ケース討論2（日本企業のケース）
- 第15回 ケース討論3（欧米企業のケース）

【準備学習の内容】

日頃から経済・経営関係の新聞や雑誌に目を通すこと

【課題に対するフィードバック】

報告・発表の際に適宜コメントする。

【テキスト】

特になし。

【参考文献】

講義で適宜紹介する。

【成績評価】

プレゼン内容と発言をもとに評価。

経営戦略論特殊講義演習Ⅰ 4単位
経営戦略論特殊講義演習Ⅱ 4単位
論文指導Ⅰ/論文指導Ⅱ 2単位/2単位
今野喜文

【テーマ】

経営戦略の策定と実行に関わる研究

【授業の到達目標】

経営戦略をテーマとした修士論文を完成させること。

【授業概要】

経営戦略論の策定と実行に関わる先行研究をさまざまな角度から検討するとともに、このプロセスを通じて修士論文のテーマ設定と作成を進める。

【授業計画】

1. 経営戦略に関わる基本的な論文・文献の研究
2. 修士論文のテーマ設定
3. 修士論文の作成と報告

【準備学習の内容】

日頃から経済・経営関係の文献を読むこと。

【課題に対するフィードバック】

報告・発表の際に適宜コメントする。

【成績評価】

授業中の発言などにより評価する。

【テキスト】

特になし。

【参考文献】

講義で適宜紹介する。

国際経営論特殊講義 2単位

菅原秀幸

【テーマ】

- (1) 国際ビジネスをめぐる理論研究と事例分析
- (2) グローバル・リーダー研究
- (3) アカデミック・コーチング研究

【授業の到達目標】

1. 国際経営論の主たる研究領域（戦略、マネジメント、組織、マーケティング、財務）を体系的に理解する。
2. 国際経営論の最新の研究領域(BOP/SDGs ビジネス、企業と社会) について基本的理解を得る。
3. 国際経営論の多岐にわたる研究課題の中から、自分の関心にそった課題を絞り込んで、それについて深く学ぶ。

【授業概要】

国際経営論の主要領域に関する基礎概念と基本的理論について学び、それらを現実の国際ビジネスにどのように役立てることができるのかについて検討します。「知識は力なり」ではなく、「知識は実践に活かされて初めて力となる」のです。知識をもっているだけでは力となりませんので、知識をどのように実践に活かすことができるのかを考えることに重点を置いて進めていきます。また「愚者は経験に学び、賢者は歴史に学ぶ」といわれますように、各個人の経験だけでなく、理論と歴史的考察に基づいた意思決定が出来るようにトレーニングしていきます。

本講義では、標準的な国際経営論の体系に沿って、主要10テーマを順次取り上げ、体系的に理解していきます。演習形式をとり、受講者によるプレゼンテーション、ディスカッション、ケース・スタディによって進めていきます。それに加えて、ブレイン・ストーミング、ビジネス・プランニングを通して、問題発見・分析・解決能力の向上をはかります。

【授業計画】

- 第1回 International Business in Globalizing World
- 第2回 International Trade and Investment Environment
- 第3回 Global Monetary System
- 第4回 Strategy of International Business
- 第5回 Strategy of International Marketing

- 第6回 Organization of International Business
- 第7回 Entry Strategy and Strategic Alliances
- 第8回 Global Manufacturing and Materials Management
- 第9回 Global Marketing and R&D
- 第10回 Global Human Resource Management
- 第11回 Corporate Social Responsibility and International Business
- 第12回 International Business in developed world
- 第13回 International Business in developing world
- 第14回 BOP/SDGs Business and CSR
- 第15回 Japanese Business in Globalizing world

【準備学習の内容】

授業でとりあげるテーマに関して、事前に指示した研究論文を読んでから出席すること。

【課題に対するフィードバック】

報告・発表の際に適宜コメントする。

【テキスト】

テキストは、開講時に指示します。

【参考文献】

参考文献は講義用サイトにアップロードしておきますので、事前にダウンロードして読んでください。

【成績評価】

講義への貢献度(プレゼン, ディスカッション): 50%
 リサーチペーパー I : 25%
 リサーチペーパー II : 25%

【その他】

その他講義に関する情報は、すべて講義用サイトに掲示します。

<http://www.SugawaraOnline.com/IB/>

国際経営論特殊講義演習 I 4単位
 国際経営論特殊講義演習 II 4単位
 論文指導 I / 論文指導 II 2単位/2単位

菅原秀幸

【テーマ】

グローバル・エコノミーにおける国際ビジネスの諸課題の研究

グローバル化の進展によって、国際ビジネスのあり方が大きく変化しており、新しい課題が次々と出てきています。本演習では、これらの課題の中から、受講生の関心にそって幾つかを選び出し、修士論文の完成を最終目標として、受講生と教員の共同作業で研究を進めていきます。

研究手法として、大きくは3つのアプローチ——理論的、実証的、歴史的——が考えられます。それぞれの研究課題にとって最も適切と考えられるアプローチにより研究を進め、正攻法の論文の書き方を指導していきます。使用するテキストや、演習の進め方については、開講時に受講生の皆さんの意見を基にして、最も実り多い成果が得られるように工夫して決めます。

【授業の到達目標】

修士論文の完成

【準備学習の内容】

事前に指示した研究論文を読んでから出席。

【課題に対するフィードバック】

報告・発表の際に適宜コメントする。

企業行動論特殊講義

2 単位

石 井 耕

【テーマ】

日本企業の企業行動と人事政策に関する事例と実証的研究

【授業の到達目標】

人事政策に関する基本的指標を把握し、日本企業の仕組みを理解する。

【授業概要】

本講義では、主に人事政策について、講義および論文講読を行う。課せられた報告者は、要約・意見・質問を取りまとめ、レジュメを作成し、参加者全員分をコピーしてくる。日本企業の人事政策についての通説を疑い、経営戦略との関連を考える。

【授業計画】

- 第1回 雇用と労働市場
- 第2回 採用と退職
- 第3回 労働移動
- 第4回 職能資格制度
- 第5回 賃金の仕組み
- 第6回 昇進・昇格
- 第7回 能力開発
- 第8回 キャリア形成と選抜
- 第9回 企業と個人の選択
- 第10回 労働時間
- 第11回 労働組合
- 第12回 福利厚生・生活支援
- 第13回 ワークライフバランス
- 第14回 非正規従業員
- 第15回 フリーター

【準備学習の内容】

テキストおよび論文を事前に読んでくる。

【課題に対するフィードバック】

報告・発表の際に適宜コメントする。

【テキスト】

佐藤・藤村・八代『新しい人事労務管理 第5版』有斐閣、2015年、2000円

【参考文献】

石井 耕『企業行動論 第3版』八千代出版、2013年、2800円

【成績評価】

出席と、課せられた報告によって、評価する。

【その他】

特になし。

現代企業論特殊講義

2 単位

石 嶋 芳 臣

【テーマ】

企業諸理論の系譜と発展

【授業の到達目標】

- ①伝統的理論から現代企業諸理論に至る学説的経緯を理解する。
- ②新制度派アプローチから経営諸問題の分析が出来る。
- ③コーポレート・ガバナンス論への洞察を深める。

【授業概要】

企業を取り巻く環境は常に変化している。今日、情報通信やバイオといった技術分野の高度化、社会や経済活動におけるグローバル化・ボーダレス化の進展に加え、少子高齢社会や環境汚染の深刻化など、従来の企業経営そのものの変革が求められ、こうした諸課題をいかに解決していくかが、現代企業の存続に関わる重要な経営課題となっている。

本講では、古典的企業理論から新制度派経済学の分析枠組みを概説し、管理と支配、およびコーポレート・ガバナンス、企業の社会的責任、企業倫理などの考察を通じて、企業の今日的な存在意義を検討する。

【授業計画】

- 第1回 ガイダンス
- 第2回 伝統的企業理論①（市場・競争・企業）
- 第3回 伝統的企業理論②（企業家活動）
- 第4回 伝統的企業理論③（経営者企業）
- 第5回 制度派経済学の組織と社会
- 第6回 経営社会学と組織社会学
- 第7回 新制度派経済学①（取引コスト）
- 第8回 新制度派経済学②（エージェンシー・コスト）
- 第9回 新制度派経済学③（財産権アプローチ）
- 第10回 新制度派経済学と不条理な現象
- 第11回 コーポレート・ガバナンス
- 第12回 日本におけるコーポレート・ガバナンスの特質
- 第13回 コーポレート・ガバナンスとCSR
- 第14回 企業倫理と経営哲学
- 第15回 まとめ

【準備学習の内容】

- ①配付資料や指定文献を読み込んで、概要を理解しつ

つ問題点を抽出する。
②関連するニュース資料や紀要・レポートに目を通して
おく。

【課題に対するフィードバック】

報告・発表の際に適宜コメントする。

【テキスト】

講義初回に提示する。

【参考文献】

必要に応じて、その都度、適宜、指摘・紹介する。

【成績評価】

講義への参加度（発言、発表等）による平常点で評価
する。

現代企業論特殊講義演習Ⅰ 4単位
現代企業論特殊講義演習Ⅱ 4単位
論文指導Ⅰ/論文指導Ⅱ 2単位/2単位

石 嶋 芳 臣

【テーマ】

現代企業の制度進化・パラダイムに関する学際的研究

【授業の到達目標】

- ①現代企業諸理論に関する洞察を深める。
- ②現代企業経営における諸問題を理解するとともに新
たな問題を発見できる。

【授業概要】

株式会社制度は、社会的コンテクストに埋め込まれた歴史・文化・慣習など経路依存性を有するが故に多様であり、株式会社企業もまた社会の変化と共に漸次的に不断のコーディネーションが行われ制度進化を果たしてきた。

本講では、多くの企業が直面する持続的競争優位性の確保と社会的期待に対するレスポンスという課題から現代企業の制度的枠組みを明らかにし、社会諸科学における企業理解の展開とパラダイムを考察することで、現代企業に関わる経営上の諸問題について理論的および実証的に追究する。

【授業計画】

- 1. 演習テーマに即した論文・文献の検討
- 2. 受講者諸氏の研究テーマに即した文献研究の検討
- 3. 修士論文作成のためのテクニカルな指導・サポート

【準備学習の内容】

- ①受講者諸氏の研究テーマに即した先行研究の分析。
- ②受講者諸氏の研究テーマに関連した学問領域の研究。
- ③配付資料や指定文献の検討。

【課題に対するフィードバック】

報告・発表の際に適宜コメントする。

【テキスト】

特になし。

【参考文献】

必要に応じて、その都度、適宜、指摘・紹介する。

【成績評価】

講義への参加度（発言、発表等）による平常点で評価
する。

【その他】

基本的には受講者諸氏の修士論文作成に向けた指導となる。いかなる研究テーマを設定するかは個人の生きる意欲と結びついており、本講のテーマに必ずしも拘束されるものではない。以上の点を踏まえ、優れた修士論文作成の一助となるよう、特殊講義とも連動させた議論・討論を行う。

企業と社会特殊講義

2 単位

春 日 賢

【テーマ】

「企業と社会」をめぐる方法論と理論的研究

【授業の到達目標】

「企業と社会」をめぐる基本的な知識と視点を身に付け、自らの修士論文作成に活かせるようにすること。

【授業概要】

本講義では、「企業と社会」論 (Business&Society) から、企業経営の目的と理念を方法論的・理論的に探究する。とくに P.ドラッカーのマネジメント理論を中心に、考察を進めていく。

「マネジメントを発明した男」ドラッカーの所説は膨大かつ多岐にわたっており、その全貌を理解することは決して容易ではない。そこで上田『ドラッカー入門』を手引きに、エッセンスとして下記「はじめて読むドラッカー」三部作を順次検討していくこととする。授業の進め方としてはテキストの輪読・発表・討論というオーソドックスなスタイルながら、ここでは文意の正確な把握のみに終始する解釈学を意図しない。受講者諸氏が自らの知識・キャリアに照らして、ドラッカー所説への共感・違和感を絶えず提起し、理解を深めながら、マネジメントに対する独自の考え方を組み立て構築していく創造的作業に重点をおく。すなわちドラッカー所説をベースにしながらも、あわよくばそれを受講者諸氏のオリジナルなマネジメント理論として、新たに組み替える、作り直す、作り変える、といったことをめざすのである。いわば「それぞれのドラッカー」を創りあげることが目標とするのである。一見冒険的なこの再構成作業こそ、万華鏡のごときドラッカー・マネジメント理論の深みと広がりを楽しむ醍醐味であるとともに、さらにはかかる知的実践のプロセスにこそ、ドラッカー・マネジメント理論の真髄、「マネジメントなるもの」への大きなヒントがあると思われるからである。以上から総じて、本講義では受講者諸氏の研究成果の向上に資するものとする。

【授業計画】

- 第1回 イントロダクション—授業の進め方その他の話し合い
- 第2回 「企業と社会」の概観—経営学と「企業と社会」
- 第3回 「企業と社会」の基礎—視点と課題
- 第4回 学史的考察①—マネジメント誕生の目的と意

義

- 第5回 学史的考察②—マネジメントの展開と社会
- 第6回 社会論の推移—産業社会と知識社会
- 第7回 マネジメントと社会—競争と共生をめぐる
- 第8回 企業の社会的な義務・責任・対応性・貢献・倫理
- 第9回 知識労働者とマネジメント
- 第10回 人と仕事のマネジメント
- 第11回 マネジメントの目的と理念
- 第12回 知識社会と新しい経営理念
- 第13回 社会とイノベーション
- 第14回 マネジメントの責任
- 第15回 まとめ

【準備学習の内容】

発表担当のいかんにかかわらず、輪読する部分についての質問および自分なりのコメントをしっかりと用意しておくこと。その他疑問に思った点については、授業前にできるだけ自分で調べてからのぞむこと。

【課題に対するフィードバック】

報告・発表の際に適宜コメントする。

【テキスト】

上田惇生『ドラッカー入門』ダイヤモンド社、2006年。
P.ドラッカー「はじめて読むドラッカー」三部作（いずれもダイヤモンド社、2000年。）；

『（自己実現編）プロフェッショナルの条件』

『（マネジメント編）チェンジ・リーダーの条件』

『（社会編）イノベーターの条件』

【参考文献】

適宜、指示する。

【成績評価】

出席を前提とし、発表・発言および課題への取り組み状況により評価する。

【その他】

特になし

企業と社会特殊講義演習Ⅰ 4単位
企業と社会特殊講義演習Ⅱ 4単位
論文指導Ⅰ/論文指導Ⅱ 2単位/2単位

春日 賢

【テーマ】

「企業と社会」に関する諸問題の研究

【授業の到達目標】

修士論文の作成。

【授業概要】

本演習では「企業と社会」に関する諸問題を取りあげながら、企業経営の目的と理念を方法論的・理論的に探求してゆく。文献の読み方をはじめとして、修士論文作成への指導が行われる。

近年、アメリカの学部および Business School で「企業と社会」論 (Business & Society) や Business Ethics が活況を呈している。企業経営は主として自らの効率性・競争性をめざして展開されてきたが、その影響力の拡大深化にともない、同時に社会性・人間性も実現されねばならなくなったからである。とりわけ IT 革命、グローバル化、規制緩和ら近年のめまぐるしい環境変化のなかで、リストラなる言葉に象徴される雇用不安および先行きへの不透明感「企業経営はだれのためにあるのか？」そしてそもそも「企業経営とは何をめざすのか？」といった根本的疑問を突きつけている。今まさに企業経営は、自らの存在理由そのものを問いただされる大きな節目を迎えているといつてよい。

以上の視点から、本演習では「企業と社会」論に関する基礎的考察を進めながら、社会性に照らした企業経営の新しいあり方と求められるべき経営理念を研究していくための足がかりとする。授業は基本的にテキストの輪読・発表・討論で展開されるが、適宜受講者との話し合いにより進めていく。

主たる内容は以下の通りである。

- I. 「企業と社会」論の問題領域
- II. 企業の社会的な義務・責任・対応性・貢献・倫理
- III. 「企業と社会」論の展開と企業市民論
- IV. 経営の目的と理念
- V. 知識社会と新しい経営理念

【準備学習の内容】

発表担当のいかんにかかわらず、輪読する部分についての質問および自分なりのコメントをしっかりと用意しておくこと。その他授業前に疑問に思った点については、できるだけ自分で調べて授業にのぞむこと。

【課題に対するフィードバック】

報告・発表の際に適宜コメントする。

【テキスト】

開講時に指示する。(代表的な文献・論文数点を予定しているが、受講者の関心領域によっては変更もありうる。)

マーケティング・マネジメント特殊講義 2単位

伊藤 友章

【テーマ】

マーケティング戦略の基礎から応用

【授業の到達目標】

- ・市場を理解し、それに対応するための戦略を構築していくための基本的な知識と考え方を身につける。
- ・ビジネス現場でそれら知識と考え方を応用し、的確な問題発見と問題解決ができるような力を身につける。
- ・マーケティングで学んだことを、ビジネス以外の様々な場面で応用出来る力を身につける。
- ・自らの修士論文の質を高めるために、本講義での学習を最大限に生かせるようにする。

【授業概要】

前半6回は学部レベルで学ぶマーケティング戦略の基礎知識の習得を目指し、7回以降は、理論、実務両面で様々な応用領域を学んでいきます。全体を通じて受講者の希望やレベル、人数に応じて柔軟に組み直していく予定です。

【授業計画】

- 第1回 オリエンテーション
- 第2回 マーケティングの基礎概念 ～市場志向と顧客価値～
- 第3回 標的市場選択の論理 (セグメンテーションとターゲティング)
- 第4回 ポジショニング選択
- 第5回 マーケティング・ミックス (製品・価格戦略)
- 第6回 マーケティング・ミックス (チャンネル・プロモーション戦略)
- 第7回 マーケティング戦略の応用 ～非営利組織のマーケティング (その1) の論理～
- 第8回 マーケティング戦略の応用 ～非営利組織のマーケティング (その2) 具体事例～
- 第9回 マーケティング戦略の応用 ～サービスマーケティング～
- 第10回 マーケティング戦略の応用 ～サービスマーケティング (事例)～
- 第11回 マーケティング戦略の発展的理論 ～競争戦略論 (ポジショニング・アプローチ) からの応用～
- 第12回 マーケティング戦略の発展的理論 ～競争戦

略論（資源ベース・アプローチ）からの応用
～

第13回 消費者行動の基礎知識 ～購買意思決定論を
中心に～

第14回 消費者行動論のマーケティング戦略への応用
～ブランド・マネジメントを中心に～

第15回 まとめと振り返り学習

【準備学習の内容】

- ・講義で取り上げる箇所について事前に関連図書を読んだり、具体的事例を見つけ出したりしておくこと。
- ・授業後は、授業内容について振り返るための講義ノートを作成しておくことが望ましい。

【課題に対するフィードバック】

報告・発表の際に適宜コメントする。

【テキスト】

特に指定なし。

【参考文献】

適宜適切な文献を紹介していきます。

【成績評価】

出席(20点)、日頃の小課題の提出および報告(60点)、
授業中の発言(20点)

【その他】

少人数の講義ですから、受身的に講義を聴くだけの授業ではなく、積極的な発言をしていただけるような機会を多く作っていきます。また短い課題（予習向け、復習向け）などを出して、その報告をお願いすることもあります。

マーケティング・マネジメント特殊講義演習Ⅰ 4単位
マーケティング・マネジメント特殊講義演習Ⅱ 4単位
論文指導Ⅰ/論文指導Ⅱ 2単位/2単位

伊藤友章

【テーマ】

マーケティング戦略の研究

受講者各自の研究テーマに応じて、修士論文作成のためのサポートをすることを目的とする。テーマ設定の仕方、テーマに沿った文献収集の仕方、文献の読み方、論文の組み立て方などが具体的な指導内容になります。

【授業の到達目標】

- ・自ら研究テーマを見つけ出し、それに取り組み、そのテーマに関わる問題を解決し、一連の成果を論文作成という形でまとめるという主体的な学びのプロセスをしっかりと遂行すること。
- ・修士の学位の名に恥じない質の高い論文に仕上げること。
- ・論文作成までのプロセスで学んだことを、修士課程修了後の自分の進路で生かせるようにすること。

【授業計画】

一年次生の計画としては以下の通りです。受講者が想定している修士論文テーマの内容や研究方法によって内容は変わっていきます。

1. オリエンテーション
2. 研究テーマ（修士論文テーマ）の設定の仕方
3. 研究テーマの大きな決定
4. 文献の探し方
5. 研究テーマに関連した書籍あるいは論文の概要報告と指導(1)
6. 研究テーマに関連した書籍あるいは論文の概要報告と指導(2)
7. 研究テーマに関連した書籍あるいは論文の概要報告と指導(3)
8. 研究テーマに関連した書籍あるいは論文の概要報告と指導(4)
9. 研究テーマに関連した書籍あるいは論文の概要報告と指導(5)
10. 研究テーマに関連した書籍あるいは論文の概要報告と指導(6)
11. 文献リストの作成（修士論文完成まで続ける）について
12. 研究方法についての指導
13. 研究方法の仮決定
14. 選択した研究方法に即した研究方法論の文献熟読およびその概要の報告(1)
15. 選択した研究方法に即した研究方法論の文献熟読およびその概要の報告(2)
16. 選択した研究方法に即した研究方法論の文献熟読およびその概要の報告(3)
17. 研究テーマに関連した書籍あるいは論文の概要報告と指導(1)

- ※ 18-22 については、前期でやったものとは異なる文献を用いる。
18. 研究テーマに関連した書籍あるいは論文の概要報告と指導(2)
 19. 研究テーマに関連した書籍あるいは論文の概要報告と指導(3)
 20. 研究テーマに関連した書籍あるいは論文の概要報告と指導(4)
 21. 研究テーマに関連した書籍あるいは論文の概要報告と指導(5)
 22. 研究テーマに関連した書籍あるいは論文の概要報告と指導(6)
 23. 修士論文作成のためのデータの収集について(1)
 24. 修士論文作成のためのデータの収集について(2)
 25. 修士論文作成のためのデータの実際
 26. 修士論文の仮の骨子(章立て)の作成について
 27. 修士論文の章(仮)の作成(1)
 28. 修士論文の章(仮)の作成(2)
 29. 二年次に向けての研究計画(1)
 30. 二年次に向けての研究計画(2)

二年次においては概ね以下の通りで進める予定です。

- ・一学期までに論文第一章分を仕上げる。主にテーマに関する主要な先行研究の整理が中心になる。
- ・中間報告の準備とその事前事後の指導
- ・論文の本論の完成(夏休みから10月まで)
- ・論文の仕上げ(10月から翌年1月まで)
- ・第二回中間報告の準備とその事前事後の指導
- ・論文提出

【準備学習の内容】

- ・一年時の準備期間は、関連書籍や論文を丹念に読みこなしの上で、出席する。
- ・二年次は、上記に加えて、指定された内容に基づき、毎回論文作成を進め、文章の途中経過を必ず持参する(印刷は不要。ノートPCやタブレットをご持参ください)。論文作成にあたって、直面している問題点や疑問点を毎回丁寧にまとめておく。

【課題に対するフィードバック】

報告・発表の際に適宜コメントする。

【成績評価】

主に以下の三点が評価項目になる。

- ・修士論文の中身
- ・中間および最終報告
- ・演習への出席

【テキスト】

なし

【参考文献】

修士論文のテーマに沿って随時紹介していきます。論文作成には大量の書籍および論文の熟読が必要になります。

マーケティング・コミュニケーション 特殊講義

2単位

下村直樹

【テーマ】

コンシューマー・インサイトと広告

【授業の到達目標】

教科書の内容を把握し、英語論文を読むために英文に対する慣れをつくる。

【授業概要】

現在、広告を取り巻く環境は企業にとって複雑な時代になっています。広告メディアとしてインターネットが主力となりつつある社会で、従来からある伝統的な広告は力を失ってきています。また、インターネットであっても、企業がメッセージをコントロールできる自社サイトではなく、FacebookやLINE、Twitterなどに代表されるソーシャルメディアが力を発揮しています。企業の広告よりも、消費者の生の声が信用される時代です。このような状況で、企業は広告をどのように考えていけばよいのでしょうか。そこでは、「共感」を生み出す広告が1つの方向として検討されており、それを考える手がかりとしてコンシューマー・インサイトという視点があります。コンシューマー・インサイト自体は1990年代半ばから出てきた考え方であり、新しいものではないですが、これからの広告を考える上で重要な視点になっています。本講義では、コンシューマー・インサイトの古典といわれる本を読み、現在の状況に当てはめながら、広告について一緒に考えていきます。

【授業計画】

1. オリエンテーション(講義の進め方について)
2. スイート・スポット
3. 広告のブレイクスルー
4. 説得の科学
5. 自分自身の読み方
6. 基礎の構築
7. データからインスピレーションへ
8. 良い消費者探偵のあり方
9. エスノグラフィー
10. 質問の仕方
11. 知覚のマッピング
12. 人々を分ける
13. インサイトを知る方法
14. 仮説のテスト

15. コラボレーションの予測と着想，講義のまとめ

【準備学習の内容】

講義はゼミ形式で行います。1冊の英語の本を用いて、1回の割り当てごとに、割り当ての担当者はレジュメ・パワーポイントを作り、それに基づいて発表します。残り的人（+割り当ての担当者）は、毎回の割り当て箇所ごとに事前課題が出されますので、それに取り組んできて、講義中に発表します。事前課題はあらかじめレジュメにまとめておき、講義終了後に提出します。

【課題に対するフィードバック】

報告・発表の際に適宜コメントする。

【テキスト】

Lisa Fortini-Campbell, Hitting The Sweet Spot, The Copy Workshop.

英語の本（翻訳は出版されていません）を読みますが、英語で書かれている欧米の教科書とは違い、本の厚さは薄くて文字が大きく、日本人にとって平易な英文で書かれていますので、英語が苦手な人でも（多少の辞書を引きますが、多分）読めると思います。

【参考文献】

1. ジョン・スティール『アカウント・プランニングが広告を変える』ダイヤモンド社 2000年 2520円
2. 小林保彦編『アカウント・プランニング思考』日経広告研究所 2004年 3675円
3. 桶谷功『インサイト』ダイヤモンド社 2006年 1680円
4. 岸志津江・田中洋・嶋村和恵『現代広告論 新版』有斐閣 2008年 2205円
5. 梶山皓『広告入門 第5版』日本経済新聞出版社 2007年 903円

を事前に読んで、知識を補ってください。

【成績評価】

出席（3分の2以上は必須。欠席（および、遅刻）する場合は、必ず講義開始前までに連絡してください。（無断欠席は即単位の取得不可となります。)), 課題への取り組み、講義への参加度合い、最終レポート

マーケティング・コミュニケーション特殊講義演習Ⅰ 4単位
マーケティング・コミュニケーション特殊講義演習Ⅱ 4単位
論文指導Ⅰ/論文指導Ⅱ 2単位/2単位

下村直樹

【テーマ】

マーケティングをコミュニケーションの視点から捉える。

【授業の到達目標】

演習Ⅰ：修士論文を作成するための知識を習得する。
演習Ⅱ：修士論文を完成させる。

【授業概要】

上記テーマにあるように、マーケティングをコミュニケーションの視点から研究します。具体的には、広告やセールス・プロモーション、パブリック・リレーションズ、統合型マーケティング・コミュニケーションなどを手がかりとして進めていきます。Ⅰではまずは修士論文を書く上での研究の進め方を学び、次いで自分の興味・関心ある文献の発表を行って、テーマを確定します。Ⅱでは随時修士論文の進捗状況を発表します。

【授業計画】

以下にあるテキストを読んで PowerPoint やレジュメにまとめて報告してもらったり、自分が興味・関心ある論文や文献をこれも PowerPoint やレジュメにまとめて報告してもらったりしながら、徐々に修士論文の研究テーマを決定していきます。テーマが決定したら、そのテーマを進めるための方法論を平行して勉強しながら、進捗状況を逐次発表します。

【準備学習の内容】

演習Ⅰ：割り当て部分に対する報告を準備する。
演習Ⅱ：修士論文の進捗状況報告を準備する。

【課題に対するフィードバック】

報告・発表の際に適宜コメントする。

【成績評価】

出席、発表・発言、レポート（特に無断欠席の場合は翌週からの演習に出席することはできません）

【テキスト】

田村正紀、『リサーチ・デザイン』、白桃書房。
藤本隆宏・他、『リサーチ・マインド 経営学研究法』、有斐閣。
今田高俊（編）、『社会学研究法 リアリティの捉え方』、有斐閣。
小池和男・洞口治夫、『経営学のフィールド・リサーチ』、有斐閣。
岸志津江・田中洋・嶋村和恵、『現代広告論』、有斐閣。

【参考文献】

その都度、紹介します。

【その他】

特になし。

流通システム論特殊講義 2 単位

佐藤 芳 彰

【テーマ】

日本の流通システムと流通業の経営に関する研究

【授業の到達目標】

流通システムの理論的側面の理解とわが国の流通システムの業種別特徴を理解する。

【授業概要】

流通は、取引の連鎖であり、取引が成立し売買が実現するまでには価格、支払条件、納期などの条件をめぐって交渉がある。この条件は、企業間取引においてより複雑である。流通システムの研究は、流通経路あるいはマーケティングチャネルのあり方や、取引条件の制度化や慣行をめぐっての問題が中心になる。取引は制度化され、特定の相手に長期的・継続的なものになる。取引は、市場で行われるよりむしろ準組織と見なされるマーケティングチャネルの中で管理されていると考えられる。講義では、日本の流通システムや流通業の経営に関して講義する。

【授業計画】

- 第1回 流通の概念とマーケティングチャネル
- 第2回 日本の流通システムの特徴
- 第3回 メーカーを中心としたチャネル管理
- 第4回 産業別流通の特徴：自動車・家電
- 第5回 産業別流通の特徴：加工食品・日用雑貨
- 第6回 大規模小売業とPB商品の生産
- 第7回 大規模小売業者とメーカーの製販提携
- 第8回 垂直統合と流通・生産機能
- 第9回 流通・生産における延期と投機の原理
- 第10回 小売業におけるPOSデータの活用と情報共有
- 第11回 インターネットコマースの進展
- 第12回 百貨店の経営と変容
- 第13回 総合スーパーの経営
- 第14回 コンビニエンスストアの経営
- 第15回 専門量販店の経営とショッピングセンター

【準備学習の内容】

流通システムの理論的・実際の側面に関する問題に関して、事前に用意した資料に基づき予習し、講義の前には疑問点を整理しておく。

【課題に対するフィードバック】

報告・発表の際に適宜コメントする。

【テキスト】

資料を配布する。講義中に指示する

【参考文献】

講義中に指示する

【成績評価】

平常点とレポートによる。

【その他】

特になし。

流通システム論特殊講義演習Ⅰ 4単位
流通システム論特殊講義演習Ⅱ 4単位
論文指導Ⅰ/論文指導Ⅱ 2単位/2単位
佐藤芳彰

【テーマ】

マーケティングチャンネル管理と製販戦略提携の研究
流通は、取引の連鎖とみることができ、流通システムの研究は、流通経路あるいはマーケティングチャンネルのあり方や、取引条件の制度化や慣行をめぐっての問題が中心になる。取引条件は取引制度として固定され、同時に取引相手が固定され、マーケティングチャンネルが準組織としての性格をもつ傾向にあった。

これらの現象は、理論的には組織間関係論と関連するものである。メーカーは、マーケティングチャンネルメンバーの中でパワーを持ち、チャンネル目標を達成するのに必要な課業が、各メンバーによって実行されるようにコントロールしようとする。チャンネルメンバーはメーカーから独立した流通業者であるので、パワー基盤をもとに協調関係を築き、また、メンバー間のチャンネル・コンフリクトを解決しようとする。

小売業が大規模化し、メーカーと垂直的な競合・対立する段階を経て、更に次の段階として、メーカーと小売業が協調・協働する段階に入ってきた。これは、小売業とメーカーの間の戦略提携と呼ばれた。例えば、発注から納品までの時間短縮、人材の削減による効率化などが実現されたが、それだけでなく、取引条件も大きく変化することとなった。チャンネルリーダーとしてメーカーが、チャンネルを設計・構築して管理するという枠組みが変化したことを意味する。この現実の変化に対応して、理論的には、パワー・コンフリクト論から、製販提携による関係性の構築、関係性マーケティングの議論へと移行していった。

本演習では、上述したような流通システムやマーケティングチャンネル研究の基礎となる理論や事例の研究をもとに、修士論文作成の指導を行う。

【授業の到達目標】

研究テーマに関する既存研究をまとめると同時に、新たな研究枠組みの提案や、調査結果を示し修士論文を作成する。

【準備学習の内容】

修士論文作成に向けて、流通システムあるいは商業経営に関する過去の既存研究や理論について報告の準備をする。

【課題に対するフィードバック】

報告・発表の際に適宜コメントする。

ファイナンス論特殊講義 2単位

赤石篤紀

【テーマ】

コーポレート・ファイナンスにおける理論の理解

【授業の到達目標】

1. 資本市場における理論モデルを理解する
2. 企業における様々な財務的意思決定（資本調達決定や投資決定など）に関する諸理論における考え方を理解する
3. 2. を踏まえて、企業の財務戦略を読み解けるようになる

【授業概要】

コーポレート・ファイナンスに関する文献（外書含む）の購読を通じて、その基本的な考え方を学ぶと同時に、専門知識の習得を狙いとする。

【授業計画】

指定のテキストを、受講生が分担して、報告する形で講義を進める。そして、その報告箇所を中心に議論を行い、理解を深めこととする。

- 第1回 企業と投資家
- 第2回 資本コストと価値評価
- 第3回 資本コストと企業経営
- 第4回 資本コストと企業経営の実践1—大阪ガス
- 第5回 資本コストと企業経営の実践2—松下電器
- 第6回 M&A戦略の理論と事例
- 第7回 負債の利用と企業価値評価
- 第8回 最適な負債比率の探究
- 第9回 負債に対する企業の見方—伊勢丹、キリン
- 第10回 エクイティ・ファイナンスと資本調達
- 第11回 配当政策に対する考え方
- 第12回 自社株買い
- 第13回 様々な配当政策—資生堂、マブチモーター
- 第14回 企業の現金保有と株式持ち合い
- 第15回 ガバナンス

【準備学習の内容】

前の講義で指定された箇所を読み、自分なりの理解を深め、論点を整理することが求められる（120分程度）

【課題に対するフィードバック】

報告・発表の際に適宜コメントする。

【テキスト】

榊原茂樹・岡田克彦 (2012) 『1からのファイナンス』
碩学舎, 2,592 円

砂川伸幸他 (2008), 『日本企業のコーポレートファイ
ナンス』, 日本経済新聞社, 3,456 円

【参考文献】

砂川伸幸他 (2013), 『経営戦略とコーポレートファイ
ナンス』, 日本経済新聞社, 3,456 円

【成績評価】

各回の講義時における準備状況や講義における発言内
容によって, 評価する。

ファイナンス論特殊講義演習 I 4 単位
ファイナンス論特殊講義演習 II 4 単位
論文指導 I / 論文指導 II 2 単位 / 2 単位

赤石篤紀

【テーマ】

特殊講義演習 I では, コーポレート・ファイナンス(経
営財務, 企業財務)の理論に関する理解を深め, 修士
論文のテーマを模索する。特殊講義演習 II では, 特殊
講義演習 I で設定したテーマに基づいて, 修士論文を
作成していく。

【授業の到達目標】

特殊講義演習 I …修士論文のテーマの決定

特殊講義演習 II …修士論文の完成

【授業概要】

特殊講義演習 I では, コーポレート・ファイナンス
(経営財務, 企業財務)の理論に関する理解を深めるた
め, 同領域における専門書の購読を行う。この過程を
経て修士論文のテーマを模索する。

特殊講義演習 II では, I で設定した修士論文のテ
ーマに即して, 論文を作成していくための指導を行う。

【授業計画】特殊講義演習 I

- 第 1 回 ガイダンス
- 第 2 回 ファイナンスに関する文献の購読① ～ファ
イナンスの基本的な考え方～
- 第 3 回 ファイナンスに関する文献の購読② ～債券
価格に関する理論～
- 第 4 回 ファイナンスに関する文献の購読③ ～ポ
ートフォリオ理論～
- 第 5 回 ファイナンスに関する文献の購読④ ～資本
資産評価モデル (CAPM) ～
- 第 6 回 ファイナンスに関する文献の購読⑤ ～裁定
評価理論 (APT) ～
- 第 7 回 経営財務に関する文献の購読① ～経営財務
の対象～
- 第 8 回 経営財務に関する文献の購読② ～投資決定
～
- 第 9 回 経営財務に関する文献の購読③ ～資本構成
～
- 第 10 回 経営財務に関する文献の購読④ ～配当政策
～
- 第 11 回 経営財務に関する文献の購読⑤ ～企業評価
～
- 第 12 回 研究テーマの設定① ～修士論文テーマに関
する議論～
- 第 13 回 研究テーマの設定② ～修士論文テーマの検

- 討～
- 第14回 研究テーマの設定③ ～修士論文テーマの再設定～
- 第15回 研究テーマの設定④ ～修士論文テーマの確定～
- 第16回 関連する先行研究のサーベイ① ～先行研究の検索～
- 第17回 関連する先行研究のサーベイ② ～先行研究の収集～
- 第18回 関連する先行研究のサーベイ③ ～先行研究の分類・整理～
- 第19回 関連する先行研究のサーベイ④ ～先行研究の分析・批判的検討～
- 第20回 関連する先行研究のサーベイ⑤ ～先行研究の再検討，先行研究の差別化～
- 第21回 研究仮説の構築① ～修士論文テーマの再検討～
- 第22回 研究仮説の構築② ～研究仮説の設計～
- 第23回 研究仮説の構築③ ～研究仮説の検討～
- 第24回 研究仮説の構築④ ～研究仮説の確定～
- 第25回 研究方法の検討① ～研究方法に関する議論～
- 第26回 研究方法の検討② ～研究方法の設定～
- 第27回 研究方法の検討③ ～研究方法の検討～
- 第28回 研究方法の検討④ ～研究方法の再設定～
- 第29回 研究方法の検討⑤ ～研究方法の確定～
- 第30回 総評

特殊講義演習Ⅱ

- 第1回 ガイダンス
- 第2回 研究計画の作成① ～修士論文のテーマと論文構成の確認～
- 第3回 研究計画の作成② ～論文構成の検討～
- 第4回 研究計画の作成③ ～方法論の確認～
- 第5回 研究に関する進捗状況の報告① ～先行研究の整理・分類～
- 第6回 研究に関する進捗状況の報告② ～先行研究の批判的検討～
- 第7回 研究に関する進捗状況の報告③ ～新たな先行研究の探索～
- 第8回 研究に関する進捗状況の報告④ ～追加した先行研究の検討～
- 第9回 研究に関する進捗状況の報告⑤ ～仮説の検証～
- 第10回 研究に関する進捗状況の報告⑥ ～検証結果の解釈～
- 第11回 研究に関する進捗状況の報告⑦ ～仮説の再設定～
- 第12回 研究に関する進捗状況の報告⑧ ～再設定した仮説の検証～
- 第13回 研究に関する進捗状況の報告⑨ ～新たな検

証の結果の解釈～

- 第14回 第1回中間報告会に向けた準備
- 第15回 第1回中間報告会
- 第16回 第1回中間報告会を踏まえた論文の再検討～コメントの検討～
- 第17回 研究に関する進捗状況の報告⑩ ～改善に向けた検討～
- 第18回 研究に関する進捗状況の報告⑪ ～論文構成の再考～
- 第19回 研究に関する進捗状況の報告⑫ ～修正個所の報告～
- 第20回 研究に関する進捗状況の報告⑬ ～修正個所の検討～
- 第21回 研究に関する進捗状況の報告⑭ ～加筆個所の報告～
- 第22回 研究に関する進捗状況の報告⑮ ～加筆個所の検討～
- 第23回 第2回中間報告会に向けた準備① ～報告内容の検討～
- 第24回 第2回中間報告会に向けた準備② ～報告内容の確定～
- 第25回 第2回中間報告会
- 第26回 第2回中間報告会を踏まえた論文の再検討①～コメントの検討～
- 第27回 第2回中間報告会を踏まえた論文の再検討②～加筆修正～
- 第28回 修士論文最終稿の報告
- 第29回 修士論文提出に向けた準備① ～内容の再検討～
- 第30回 修士論文提出に向けた準備② ～体裁の再確認～

【準備学習の内容】

演習Ⅰ…各回のテーマに即して，1時間の演習に耐える内容の発表物（レジュメなど）を用意することを求める（30分～）

演習Ⅱ…1年間を通して論文作成を進めていくとともに，毎回の演習では，新たに作成した論文の箇所や修正箇所，進捗状況を報告するための準備を求める（30分～）

【課題に対するフィードバック】

報告・発表の際に適宜コメントする。

【成績評価】

各回の講義時の報告内容によって評価する。

【テキスト】

講義時に指定する。

【参考文献】

必要に応じて，適宜紹介する。

非営利事業論特殊講義

2 単位

菅原浩信

【テーマ】

民間非営利組織のマネジメントに関する実践的研究

【授業の到達目標】

民間非営利組織（NPO 法人やボランティア組織）とはどのようなものか、また、そのマネジメントはどのように展開されているのかについて理解できる。

【授業概要】

本講では、民間非営利組織（NPO 法人やボランティア組織）のマネジメントについて具体的に検討する。前半は民間非営利組織に関するテキストの輪読、後半は主として NPO 法人のマネジメントに関する事例研究を行う。

【授業計画】

おおむね以下の通りとするが、履修者の人数や、履修者の問題意識・関心等によっては、内容や進捗状況を大幅に変更する場合がありますので、留意されたい。

第1回：ガイダンス

第2回：テキスト輪読(1)（なぜ NPO を選ぶのか、NPO とは何か①）

第3回：テキスト輪読(2)（NPO とは何か②、NPO はなぜ求められるのか）

第4回：テキスト輪読(3)（NPO の4つの機能、法・制度を学ぼう）

第5回：テキスト輪読(4)（行政との関わりを考えよう、ソーシャル・キャピタルとは）

第6回：テキスト輪読(5)（企業との関係を知ろう、大災害における NPO の役割）

第7回：テキスト輪読(6)（社会的起業家・社会的企業とは）

第8回：テキスト輪読(7)（マネジメントを理解しよう）

第9回：テキスト輪読(8)（どのように資金調達するのか）

第10回：事例研究(1)（担当教員が指定する非営利組織（例：飛んでけ！車いすの会、北海道 NPO バンク、霧多布湿原ナショナルトラスト等）の中から1組織選択）

第11回：事例研究(2)（第10回に同じ）

第12回：事例研究(3)（第10回に同じ）

第13回：事例研究(4)（履修者が自らの興味・関心に基づき任意の非営利組織を1組織選択）

第14回：事例研究(5)（第13回に同じ）

第15回：事例研究(6)（第13回に同じ）

【準備学習の内容】

本講は、履修者の報告・討論により進められる。そのため、毎回の報告者は事前にレジュメを作成の上、参加者全員に送付しておく。また、報告者以外の参加者は送付されたレジュメを熟読し、意見・質問等を考えておく。

【課題に対するフィードバック】

報告・発表の際に適宜コメントする。

【テキスト】

澤村明・田中敬文・黒田かをり・西出優子『はじめての NPO 論』、有斐閣、2017 年

【参考文献】

必要に応じて適宜紹介する。

【成績評価】

報告内容および出席状況（主として議論への参加度）により評価する。

【その他】

特になし。

非営利事業論特殊講義演習Ⅰ 4単位
非営利事業論特殊講義演習Ⅱ 4単位
論文指導Ⅰ/論文指導Ⅱ 2単位/2単位
菅原浩信

【テーマ】

民間非営利組織や公企業のマネジメントに関する実践的研究

【授業の到達目標】

修士論文を完成させる。

【授業概要】

本演習では、履修者の民間非営利組織や公企業に関する問題意識・関心等に基づき、修士論文の作成に向けた指導を行う。

【授業計画】

概要は以下の通りであるが、履修者の問題意識・関心等によっては、内容や進捗状況を一部変更する場合がありますので、留意されたい。

1. 民間非営利組織や公企業のマネジメントに関する論文等の研究
2. 研究テーマの設定
3. 研究テーマに関連する先行研究のサーベイ
4. 研究仮説の構築
5. 研究方法の検討
6. 研究計画の作成
7. 研究に関する進捗状況の報告（中間報告会に向けた準備を含む）
8. 修士論文提出に向けた準備

【準備学習の内容】

本講は、履修者の報告・討論により進められる。そのため、毎回の報告者は事前にレジюмеを作成の上、参加者全員に送付しておく。

【課題に対するフィードバック】

報告・発表の際に適宜コメントする。

【テキスト】

履修者の問題意識・関心等をふまえて決定する。

【参考文献】

必要に応じて適宜紹介する。

【成績評価】

報告内容、議論内容および研究成果により評価する。

【その他】

特になし。

医療機関の経営戦略
(組織経営特殊講義Ⅰ) 2単位

石井 耕

【テーマ】

医療機関の経営戦略に関する事例と実証的研究

【授業の到達目標】

医療マネジメント履修院生が、医療機関の経営戦略、経営者などについて、学習する。現在あるいは将来、経営者（トップ・マネジメント）の一角として、医療機関の経営にあたる要件について学ぶ。

【授業概要】

本講義では、主に医療機関の経営戦略について、講義および論文講読を行う。課せられた報告者は、要約・意見・質問を取りまとめ、レジюмеを作成し、参加者全員分をコピーしてくる。

【授業計画】

- 第1回 会社と医療機関および経営者
- 第2回 競争戦略
- 第3回 多角化戦略
- 第4回 全社経営戦略
- 第5回 M&Aと戦略的提携
- 第6回 資源配分の選択と集中
- 第7回 国際化戦略
- 第8回 トヨタ生産方式およびイノベーション
- 第9回 医療機関の事例研究Ⅰ（具体的には、開講後院生と相談して決定する）
- 第10回 事例研究Ⅱ
- 第11回 事例研究Ⅲ
- 第12回 事例研究Ⅳ
- 第13回 事例研究Ⅴ
- 第14回 事例研究Ⅵ
- 第15回 事例研究Ⅶ

【準備学習の内容】

事前に、テキストおよび論文を読んでくる。

【課題に対するフィードバック】

報告・発表の際に適宜コメントする。

【テキスト】

石井 耕『企業行動論 第3版』八千代出版、2013年、2800円

【参考文献】

開講後、論文および書籍を指定する。

【成績評価】

出席と、課せられた報告によって、評価する。

【その他】

特になし。

会計学特殊講義

2 単位

庄 司 樹 古

【テーマ】

会計概念フレームワークの基礎概念と各ステートメントの研究

【授業の到達目標】

会計基準を設定するためのメタ基準である会計概念フレームワークの構造と形成プロセスを検証することで、現代会計の大きな潮流を学ぶことを到達目標とする。

【授業概要】

IFRS と会計基準設定のための理論的基礎を異にするわが国においては、IFRS の全面的採用に際して、単なる会計基準の変更のみでなく、会計全体を支える基礎概念の変更も余儀なくされてきた。

ところで、IFRS における会計全体を支えるさまざまな基礎概念は、IFRS においてはじめて生じたものではなく、その多くの萌芽は、アメリカ財務会計基準審議会 (FASB) が公表する FASB 概念ステートメントに求められる。

そこで、本講義では、現代会計を理解するための基礎概念の多くを包含している FASB 概念ステートメントにおける各種トピックスを受講者各人に研究報告してもらう形式で講義を進めて行く。

【授業計画】

- 第1回 講義の進め方に関するガイダンス
- 第2回 イントロダクション
- 第3回 FASB 概念ステートメントの構成
- 第4回 FASB 概念ステートメントの役割
- 第5回 意思決定有用性会計の理論的基盤
- 第6回 会計情報の特性とトレードオフ関係
- 第7回 資産負債アプローチ
- 第8回 収益費用アプローチ
- 第9回 財務諸表の構成要素の定義と利益観
- 第10回 認識プロセスの構造の比較検証
- 第11回 獲得利益と包括的利益の概念構造
- 第12回 IASB 概念フレームワークとの比較検証 1
- 第13回 わが国概念フレームワークとの比較検証 2
- 第14回 取得原価主義と公正価値会計の比較検証
- 第15回 まとめ

なお、受講者の要望によっては、授業概要および計画は柔軟に変更する。

【準備学習の内容】

準備学習として、以下の2点を要求する。

- ・事前に指定された文献を熟読し、ノートをまとめて事前提出すること
- ・講義後、事前学習と講義内容を踏まえて、事後レポートを提出すること

【課題に対するフィードバック】

報告・発表の際に適宜コメントする。

【テキスト】

講義時に指定します。

【参考文献】

講義時に指定します。

【成績評価】

発表の内容と講義における発言によって評価します。

会計学特殊講義演習Ⅰ 4単位
会計学特殊講義演習Ⅱ 4単位
論文指導Ⅰ/論文指導Ⅱ 2単位/2単位

庄司樹古

【テーマ】

会計制度および会計基準の生成と発展プロセスの研究

【授業の到達目標】

- ・会計学特殊講義演習Ⅰでは、学習の成果をまとめて、大学院の研究論集の執筆を行うことを到達目標とする。
- ・会計学特殊講義演習Ⅱでは、会計学特殊講義演習Ⅰから継続してきた研究をもとに修士論文を完成させることを到達目標とする。

【授業概要】

会計学特殊講義演習Ⅰでは、現代会計における制度および基準の中から論文テーマを選択してもらい、当該テーマの歴史的経緯から研究を始めてもらう。

ただし、そのためには、取得原価主義、実現概念を中核に据えるいわゆる動態論会計を熟知し、それとの比較の上で研究を進めることが不可欠である。したがって、会計学特殊講義演習Ⅰでは、まず、伝統的会計理論の学修に注力してもらうことになる。

会計学特殊講義演習Ⅱでは、演習Ⅰにおける研究によって形成された理論的基礎に立脚し、公正価値測定を導入する現代会計におけるさまざまなトピックスに関して、その制度的構造と理論的基礎に関して研究してもらう。

とりわけ、FASBならびにIASBにおける公正価値会計に関連して制定された各種基準の涉猟と研究、さらに、IFRSにおける最新の会計基準の分析を中心としたい。

そして、上記研究を通じて、現代会計における各種のトピックスの中から、修士論文作成のためのテーマを設定し、研究ならびに報告を行ってもらう。

【授業計画】

基本的な授業計画の概要は、次の4つの段階から構成されている。

1. テーマの設定に関する指導
2. 課題書籍の講読
3. 各回におけるレポートの作成
4. 各回におけるディスカッション

詳細については、受講生と相談の上で決定する。

なお、テーマの設定によっては、授業概要の内容も柔軟に変更する。

【準備学習の内容】

準備学習として、以下の2点を要求する。

- ・事前学習：研究内容の報告書に関するレジュメの作成と提出
- ・事後学習：講義後の事後レポートの作成と提出

【課題に対するフィードバック】

報告・発表の際に適宜コメントする。

【テキスト】

講義時に指定します。

【参考文献】

藤井秀樹『現代企業会計論』森山書店 1997年 ¥4,100

津守常弘『会計基準形成の論理』森山書店 2002年 ¥5,100

土方久『貸借対照表能力論』税務経理協会 1993年 ¥2,600

斎藤静樹『会計基準の研究増補版』中央経済社 2010年 ¥3,800

広瀬義州『会計基準論』中央経済社 1995年 ¥4,300

松尾幸正『会計理論の基礎構造』同文館 1982年 ¥2,900

【成績評価】

発表の内容と講義における発言、大学院研究論集の執筆と修士論文の完成によって評価します。

財務会計論特殊講義

2 単位

高 木 裕 之

【テーマ】

企業会計制度に関する理論、法及び実務の相関に関する研究

【授業の到達目標】

- ・ 会計実務の処理について、国際比較ができる。
- ・ 企業会計制度の展望を洞察することができる。

【授業概要】

本講義では、我が国企業会計制度の将来を見定めるべく、その源流をドイツ商法会計に求めて、戦前から今日に至るドイツの「法的意味における会計」の歴史の変遷について条文を通して検討し、会計理論及び会計実務が法典化にどのように影響を及ぼしたのかを研究する。その際、とりわけ 1965 年株式法の改正後の商法規定の変革と EC 指令の国内法化によって改正された 85 年商法典を検討することによって、ドイツ企業会計制度の現代的基盤をその中に見いだすとともに、「資本調達容易化法」をめぐってドイツ多国籍企業が国際資本市場に向けて企業会計制度との関わり合いを強く示した姿を資料などで確認し、その後の国際化に向けた一連の変革を制度面で検討する。

【授業計画】

1. 財務会計論研究の方法と課題
2. 会計目的の制度上の意義と歴史的展開
3. 会計目的の構造化と法典化
4. ドイツ企業会計制度の橋脚概念
5. 正規の簿記の諸原則について
6. 基準性の原則について
7. 逆基準性の原則について
8. True and fair view について
9. GoB と TFV との相剋
10. Rule-base と Principle-base について
11. 会計基準と法規
12. 会計基準設定機関について
13. ドイツ企業会計制度と IFRS
14. 国内基準と国際基準—分離か統一か
15. 展望

【準備学習の内容】

- ・ 提供する資料のテクニカルタームを事前に調べる。
- ・ 各回のテーマとなる会計実務について、事例を調べ

る。

【課題に対するフィードバック】

報告・発表の際に適宜コメントする。

【成績評価】

平常点をもって評価します。

【テキスト】

なし

【参考文献】

講義時に随時紹介します。

【その他】

特になし。

財務会計論特殊講義演習Ⅰ 4単位
財務会計論特殊講義演習Ⅱ 4単位
論文指導Ⅰ/論文指導Ⅱ 2単位/2単位

高木裕之

【テーマ】

法会計制度論における会計構造の橋脚概念について

【授業の到達目標】

- ・演習Ⅰでは、研究のテーマに対する実務上の課題・問題点を理解している。
- ・演習Ⅱでは、論文テーマとした実務上・理論上の課題・問題点にたいして実証的・論理的に答えを導いている。

【授業概要】

企業会計制度のあり方は、アングロサクソン系企業会計制度と大陸法系企業会計制度に大別される。我が国の企業会計制度はその歴史的経緯から、基盤構造において大陸法系企業会計制度が採用されてきたのであるが、資本市場が国際展開する中でアングロサクソン系企業会計制度が優位性を増している。演習では国際会計基準との関わりで企業会計制度論について検討する。このような研究対象での指導となる。

【授業計画】

演習は各院生のテーマに沿って指導計画をとる。

1. テーマの設定に関する指導
2. 研究課題に対する資料入手に関する指導
3. 研究課題に対する方法論上の指導
4. 論文の章立てと論理構成に関する指導
5. 論文の形式に関する指導

【準備学習の内容】

- ・各自のテーマに即した実務例を調べる。
- ・各自のテーマに関する会計基準を国際比較する。

【課題に対するフィードバック】

報告・発表の際に適宜コメントする。

【成績評価】

平常点をもって評価する。

【テキスト】

なし

【参考文献】

随時紹介する。

【その他】

なし

管理会計論特殊講義 2単位

内田昌利

【テーマ】

“採算をとる”ということはどういうことか

【授業の到達目標】

「採算をとる」という経営行動が、管理会計という組織の財務的コントロール・システムを生み、同時にその有効な機能のために人間行動との相互作用関係を取り入れていくという二重的課題にアプローチしていく。

【授業概要】

組織は効率性と有効性の両面を満たしてはじめて持続可能になるもので、営利組織は言うに及ばず、非営利組織もこの例外ではない。

本講義では、この両面を意識しつつ財務的コントロールシステムを中核において日本企業の管理会計システムを理解するとともにケーススタディを行う。

【授業計画】

- 第1回 イントロダクション：“採算をとる”ということはどういうことか。“採算をとる”ためにはどうしたらよいか
- 第2回 事業組織のタイプと組織の目的について
- 第3回 「利益」目的と「会計利益」について
- 第4回 会計利益は硬い数字か柔かい数字か—会計情報の「うそとほんとう」—
- 第5回 組織のマネジメントコントロールシステムと「利益管理」
- 第6回 利益管理と「予算管理」—理論と実務—
- 第7回 予算管理と人間行動(1)
- 第8回 予算管理と人間行動(2)
- 第9回 非営利・公的組織の管理会計
- 第10回 医療経営における管理会計の機能—予算を中軸とした総合管理—
- 第11回 BSC (バランススコアカード) 経営の理論
- 第12回 医療 BSC 経営の理論とケース
- 第13回 アメーバ経営の理論
- 第14回 医療アメーバ経営の理論とケース
- 第15回 まとめ：“自律的”組織経営の展開と「文化」要因

【準備学習の内容】

マネジメント、組織・社会心理、比較文化、ファイナンス等幅広い学際的知識を動員して考えてみる。

【課題に対するフィードバック】

報告・発表の際に適宜コメントする。

【テキスト】

資料を適宜配付する。

【参考文献】

谷武幸 (2009) 『エッセンシャル管理会計』中央経済社
 廣本編著 (2009) 『自律的組織の経営システム』森山書店
 廣本・加登・岡野 (2012) 『日本企業の管理会計システム』中央経済社
 内田昌利 (2003) 『行動管理会計論』第2版 森山書店
 その他

【成績評価】

授業での平常点，発表で総合的に評価する。

原価計算特殊講義

2 単位

今 村 聡

【テーマ】

現代原価計算制度の基礎理論を理解する。

【授業の到達目標】

原価計算制度の概要について，丸暗記ではなく，自分の言葉で説明できること。

【授業概要】

学部レベルのテキストを輪読するが，計算手続や公式の持つ意味を理解できることを目的として精読する。後半では，原価計算制度の範囲外のトピックについても，雑誌論文や英語文献を選んで輪読し議論したい。

【授業計画】

- 第1講 原価計算の目的・原価とは
- 第2講 原価計算の歴史
- 第3講 費目別計算
- 第4講 部門別計算
- 第5講 個別原価計算
- 第6講 総合原価計算
- 第7講 標準原価計算
- 第8講 直接原価計算
- 第9講 CVP分析
- 第10講 価格決定と原価計算
- 第11講 コスト・マネジメント
- 第12講 ABC
- 第13講 差額利益概念
- 第14講 業務執行的意思決定
- 第15講 戦略的意思決定

【準備学習の内容】

テキストの指定箇所や，指示された論文を読んでおく。

または，テキストの章末計算問題等を，まずは自分で解いてみる。

【課題に対するフィードバック】

報告・発表の際に適宜コメントするが，あまりに酷い場合は，個別に説諭する。

【成績評価】

普段の講義での発言や，課題への取り組み方などを評価の主な対象とするが，期末に短いレポートを課すことがあり得る。

【テキスト】

櫻井通晴著『原価計算』，2014年
 廣本敏郎著『原価計算論（第2版）』，2008年
 岡本清著『原価計算〔六訂版〕』，2000年
 Horngren, C. T., Datar, S. M., Foster, G., Cost Accounting: a managerial emphasis, 12th ed., 2006

経営情報論特殊講義

2 単位

天 笠 道 裕

【テーマ】

経営情報とシステム科学

【授業の到達目標】

経営情報システム構築のために有用なシステム認識理論、および、種々の経営情報システムに関して深く理解する。

【授業概要】

経済や技術および社会環境などの外部環境の変化が激しい今日、企業はこれらの変化に積極的に対処し外部情報を収集し、分析することが肝要である。そしてその中から経営戦略上の問題を発見し、解決することにより、企業競争力や収益性を確保する必要がある。外部環境の中でも、特に情報技術の進展をいかに経営活動の中に取り込み、そこから生じる経営情報を経営戦略上の手段としていかに活用するかということが重要であり、経営情報システムの構築とその基礎となるシステム認識について講究することは意義のあることである。

本講義は、経営情報システムの構築のために有用な、問題の本質を把握するためのシステム認識理論、およびさまざまな経営情報システムをとりあげ講究する。

【授業計画】

- 第1回 システムの定義
- 第2回 システムと環境
- 第3回 問題の発見とその解決法
- 第4回 システム認識理論
- 第5回 システム認識理論の応用
- 第6回 経営情報とシステム
- 第7回 Ill-defined problem
- 第8回 Well-defined problem
- 第9回 問題の構造・機能分類
- 第10回 問題の構造・機能分類と経営情報システム
- 第11回 意思決定支援システム
- 第12回 実際の経営情報意思決定支援システム
- 第13回 意思決定支援システムによるシミュレーション(1): PLAN, DO
- 第14回 意思決定支援システムによるシミュレーション(2): DO, SEE
- 第15回 まとめ

【準備学習の内容】

講義内容に応じて適宜配布される文献を熟読し、理解を深めておくことが望まれる。

【課題に対するフィードバック】

報告・発表の際に適宜コメントする。

【テキスト】

講義内容に関する文献を適宜配布する。

【参考文献】

講義の中で指示する。

【成績評価】

課題報告、討論内容等に基づき、総合的に評価する。

【その他】

特になし

経営情報論特殊講義演習Ⅰ 4単位
経営情報論特殊講義演習Ⅱ 4単位
論文指導Ⅰ/論文指導Ⅱ 2単位/2単位

天 笠 道 裕

【テーマ】

経営情報と意思決定

【授業の到達目標】

不確実性を伴うデータに対する新しい方法論を研究し、意思決定支援システムとして構築する。さらに、そのシステムを実際の経営問題に応用し考察する。

【授業概要】

経営情報システムに関する文献について考究するとともに、それらの研究論文の発展した内容として、不確実性を伴うデータに対する新しい方法論を研究し、意思決定支援システムとして構築する。さらにそのシステムを実際の経営問題に応用し考察する。

なお、論文作成のための手続きや論文の書き方に関して、論文審査のための基準等を参考にしながら研究指導を行う。さらに学会等でのプレゼンテーションの方法についても指導する。

【授業計画】

以下の主たる具体的研究テーマに関する研究を行う。

- I. Decision Support System of Prediction Method and Its Applications
- II. Decision Support System of Human Resource Management and Its Applications
- III. Establishment of Selling Price and Its Applications
- IV. Performance Measurement System for Value Improvement of Services and Its Applications

【準備学習の内容】

演習テーマに応じて適宜配布される文献を熟読し、理解を深めておくことが望まれる。

【課題に対するフィードバック】

報告・発表の際に適宜コメントする。

【テキスト】

演習テーマに関する文献を適宜配布する。

【参考文献】

その都度示唆する。

【成績評価】

課題報告、討論内容、および研究成果に基づき、総合的に評価する。

【その他】

特になし

情報システム論特殊講義 2単位

関 哲 人

【テーマ】

経営と情報システムの相互作用を学ぶ。

【授業の到達目標】

経営情報システム論・経営情報論分野における情報システムの捉え方を身につける。

【授業概要】

本講義では、「経営における目標を達成するために情報システムをどう構築・活用すべきか」を検討する。ここでは、経営情報システム論・経営情報論分野の論文を用いてこれらについて考えてもらう。

【授業計画】

- 第1回 ガイダンス
- 第2回 経営情報論・経営情報システム論の概要
- 第3回 オフィス・オートメーション
- 第4回 情報システム設計論
- 第5回 情報品質
- 第6回 SNSと情報システム
- 第7回 ビジネスシステム
- 第8回 ICTとマーケティング
- 第9回 ICTと地域振興
- 第10回 ICTとものづくり
- 第11回 医療情報システム
- 第12回 リスクマネジメントと情報システム
- 第13回 情報倫理
- 第14回 情報教育と人材育成
- 第15回 全体の総括

【準備学習の内容】

事前に学術論文のコピーを配布するので、あらかじめ読んできてほしい。

【課題に対するフィードバック】

報告・発表の際に適宜コメントする。

【テキスト】

配布する学術論文のコピーを用いる。

【参考文献】

随時紹介する。

【成績評価】

出席状況及び議論への参加の度合いによって評価する。

【その他】

受講生の興味や進度によって授業計画を変更することもあり得る。

情報システム論特殊講義演習 I 4 単位
情報システム論特殊講義演習 II 4 単位
論文指導 I /論文指導 II 2 単位/2 単位

関 哲 人

【テーマ】

情報システムと組織及び情報システムと人間の有機的結合にかかわる実証研究を行い、学会報告・論文の形にまとめる。

【授業の到達目標】

本演習では実証研究を考えているため、統計解析、質的調査、事例分析のいずれかの形でまとめてもらいます。実務的な問題意識に立脚し、データないし事例について深い理解を求め、それを理論化してもらうこととなります。

【授業概要】

情報システムと組織及び情報システムと人間はどのようにかかわることで、優れた情報システムが構築・運用できるか。その考察のためには、自らが持っている事例やデータを、実証分析を通じて深く掘り下げてもらうこととなります。そこで、基礎理論と分析手法を修得した上で、学会報告という形にまとめ上げます。最終的には、自身の考察を修士論文という形でまとめてもらいます。

【授業計画】

- ・分析手法の修得
- ・先行研究の確認
- ・予備調査・実験
- ・本調査・実験
- ・学会報告準備・本番
- ・追加調査・実験
- ・修士論文の作成

【準備学習の内容】

- ・自身が持っている事例を整理すること。
- ・分析手法、統計解析手法については一通り理解しておくこと。

【課題に対するフィードバック】

- ・収集したデータの分析については、指導教員のアドバイスのもとで実施される。
- ・報告や論文についても、指導教員その他の研究者によるコメントがあり、そのコメントを履修者が反映させることになる。

【成績評価】

- ・学会報告及び修士論文の内容で判断します。

【テキスト】

履修者の関心に応じて、適当な書籍・論文を選んで、テキストとして用います。

【参考文献】

必要に応じて、適宜書籍・論文などを紹介します。

【その他】

- ・学会報告は最低1回行ってもらいます。学会報告に至るまで指導教員による指導を経て、学会報告では研究者からコメントをもらうこととなります。これらを踏まえ、修士論文を完成させることとなります。
- ・授業計画は、実証研究を質問紙調査を想定した例です。担当教員は他の実証研究手法にも対応するので、他手法の場合であっても本計画に倣って指導します。

情報コミュニケーション論特殊講義 2単位

福 永 厚

【テーマ】

企業の情報ネットワーク化について

【授業の到達目標】

情報通信技術によって組織やコミュニケーションがどのように変わるかについての知見を得る。

【授業概要】

本講義では、コンピュータ・ネットワークシステムが企業に導入された場合に、企業がどのように変わっていくかについて学ぶ。具体的には、インターネットやイントラネットが企業に普及していくにつれて企業組織やコミュニケーションがどのように変わっていくかについて、インターネットを利用したビジネスなどについて学ぶ。

さらに、Web上でHTMLとCSSによるページ作成やJavaScript, Java, PHPなどによるプログラミング、Webアンケート作成など、技術習得も行う。

【授業計画】

- 第1回 情報と情報化
- 第2回 情報処理とコンピュータ
- 第3回 ネットワーク
- 第4回 イントラネット
- 第5回 企業の情報ネットワーク化
- 第6回 インターネット
- 第7回 Web技術
- 第8回 HTML
- 第9回 CSS
- 第10回 JavaScript
- 第11回 Java
- 第12回 PHP
- 第13回 CGIとWebアンケート
- 第14回 インターネットビジネス
- 第15回 組織コミュニケーション

【準備学習の内容】

事前にテキストや資料を読み、質問や意見を整理しておく。

【課題に対するフィードバック】

報告・発表の際に適宜コメントする。

【テキスト】

受講者と相談の上、テキストを決める。

【参考文献】

特になし

【成績評価】

平常点と課題の履行状況により評価する。

【その他】

特になし

情報コミュニケーション論特殊講義演習Ⅰ 4単位
情報コミュニケーション論特殊講義演習Ⅱ 4単位
論文指導Ⅰ/論文指導Ⅱ 2単位/2単位

福 永 厚

【テーマ】

情報通信技術のビジネスへの応用について

【授業の到達目標】

情報通信技術をビジネスに活かすことについての知見を得ることと研究能力の向上をはかる。

【授業概要】

本演習ではコンピュータやネットワーク、インターネットといった情報通信技術をビジネスなどに活かすことについて研究する。情報通信についての知識、技術を習得し、それらを経営、組織、ビジネスに活かすことを機械と人間との相互作用の観点から考察し、分析、提案、開発することを目指す。但し、演習を希望する受講者の興味に合わせて内容は変わる。

【授業計画】

- I. 情報通信についての知識習得
- II. 情報通信についての技術習得
- III. 経営、組織、ビジネスへの応用
- IV. 考察

【準備学習の内容】

事前にテキストや資料を読み、質問や意見を整理しておく。

【課題に対するフィードバック】

報告・発表の際に適宜コメントする。

【成績評価】

出席や課題の履行状況により評価する。

【テキスト】

テキストは、受講者と相談の上、決める。

情報処理論特殊講義

2 単位

上 田 雅 幸

【テーマ】

情報処理と意思決定

【授業の到達目標】

情報処理の技術的側面の理解
情報技術を活用した意思決定の能力の向上

【授業概要】

本講義では、情報処理の技術的な側面だけでなく、情報技術を活用した意思決定（例えば、Excel のソルバー機能を活用した科学的意思決定）についても学ぶ。

【授業計画】

- 第1回 ガイダンス
- 第2回 コンピュータの5大装置(1)記憶装置、記憶が行える仕組み
- 第3回 コンピュータの5大装置(2) CPU, 演算が行える仕組み
- 第4回 OS の役割と機能
- 第5回 セキュリティ(1)盗聴対策
- 第6回 セキュリティ(2)改竄・なりすまし対策
- 第7回 Excel による問題解決(1) Excel ソルバーとは
- 第8回 Excel による問題解決(2) 生産計画問題とは
- 第9回 Excel による問題解決(3) 生産計画問題の解法
- 第10回 Excel による問題解決(4) 輸送問題とは
- 第11回 Excel による問題解決(5) 輸送問題の解法
- 第12回 Excel による問題解決(6) 割当て問題とは
- 第13回 Excel による問題解決(7) 割当て問題の解法
- 第14回 Excel による問題解決(8) 応用問題
- 第15回 全体の総括

【準備学習の内容】

事前にテキストや資料を読み、理解を深めておく。

【課題に対するフィードバック】

報告・発表の際に適宜コメントする。

【テキスト】

受講者と相談の上、テキストを決める。

【参考書】

随時紹介する。

【学生に対する評価】

出席状況と課題の履行状況などに基づき、総合的に評価する。

【その他】

特になし。

情報処理論特殊講義演習Ⅰ 4単位
情報処理論特殊講義演習Ⅱ 4単位
論文指導Ⅰ/論文指導Ⅱ 2単位/2単位

上田雅幸

【テーマ】

意思決定（支援）における情報技術の活用に関する研究

【授業の到達目標】

- ・研究テーマの設定(特殊講義演習Ⅰ)，及び，修士論文の完成（特殊講義演習Ⅱ）
- ・情報技術を活用した意思決定の能力の向上

【授業概要】

- ・興味・関心のある先行研究をさまざまな観点から分析しながら，修士論文のテーマ設定と作成を進める。
- ・“文献収集”，“論文の読み方”など，論文作成に必要な指導を行う。

【授業計画】

- ・情報技術を活用した意思決定（支援）に関わる先行研究の整理を行う。
- ・研究テーマを設定する。
- ・研究計画に従って，修士論文の完成を目指す。

【準備学習の内容】

事前にテキストや資料を読み，理解を深めておく。

【課題に対するフィードバック】

報告・発表の際に適宜コメントする。

【成績評価】

報告内容および研究成果により評価する。

【テキスト】

受講者と相談の上，テキストを決める。

【参考文献】

随時紹介する。

【その他】

特になし。

組織心理学特殊講義

2 単位

増地 あゆみ

【テーマ】

組織のリスク・マネジメントに関する心理学的考察

【授業の到達目標】

組織で起きる事故や不祥事に関わる心理学的要因の影響を理解し、組織のリスク・マネジメントのあり方を考察することを目標とする。

【授業概要】

本講義では、組織で起きる事故に関わる心理学的要因として、個人と組織の意思決定にみられるバイアス、ヒューマン・エラーや不安全行動を誘発する組織的要因などの影響を理解したうえで、より有効なリスク・マネジメントのあり方について考察する。

【授業計画】

- 第1回 組織とリスク① ー組織事故における心理学的要因
- 第2回 組織とリスク② ー産業事故事例の分析
- 第3回 組織とリスク③ ー医療事故事例の分析
- 第4回 リスクに関わる意思決定① ー産業場面におけるリスク認知
- 第5回 リスクに関わる意思決定② ーリスク認知と安全行動
- 第6回 リスクに関わる意思決定③ ーリスクに対する集団意思決定
- 第7回 組織とヒューマン・エラー① ーエラーの分類としくみ
- 第8回 組織とヒューマン・エラー② ーエラー発生の組織的要因
- 第9回 組織とヒューマン・エラー③ ー組織のエラー対策事例
- 第10回 リスクと組織風土① ー組織風土と個人の意思決定
- 第11回 リスクと組織風土② ー組織風土と集団思考(浅慮)
- 第12回 リスクと組織風土③ ー安全文化の育成
- 第13回 組織のリスク管理とリスク教育① ーリスク管理の枠組み
- 第14回 組織のリスク管理とリスク教育② ー組織的な「知」の活用
- 第15回 組織のリスク管理とリスク教育③ ー経験に基づく安全行動の習得

【準備学習の内容】

心理学および組織心理学領域の基礎知識を確認しておくとともに、近年の組織事故の具体的事例を把握しておく。

【課題に対するフィードバック】

報告・発表の際に適宜コメントする。

【テキスト】

岡本浩一・今野裕之『リスク・マネジメントの心理学—事故・事件から学ぶ』新曜社 2003年

【参考文献】

山内桂子・山内隆久『医療事故—なぜ起こるのか、どうすれば防げるのか』朝日新聞社 2000年
小口孝司・楠見孝・今井芳昭『エミネント・ホワイター—ホワイトカラーへの産業・組織心理学からの提言』北大路書房 2003年

【成績評価】

講義中の発表内容およびレポートに基づいて評価する。

組織心理学特殊講義演習Ⅰ 4単位
組織心理学特殊講義演習Ⅱ 4単位
論文指導Ⅰ/論文指導Ⅱ 2単位/2単位

増地 あゆみ

【テーマ】

組織における人間行動に関する心理学的研究

【授業の到達目標】

組織における個々の人間行動、あるいは組織と個人の相互作用に関する研究テーマを定め、研究テーマに関連する文献研究を経て、実験研究または調査研究により設定したテーマについて検討することを目標とする。

【授業概要】

本演習では、1年次に、関心のある領域に関する文献を講読し、研究テーマを明確にした上で、具体的な研究計画を立てる。合わせて、実験や調査の手法、統計手法についても学び、予備的な調査または実験を行う。2年次には、研究計画に従って研究を実施し、データの解析作業を行い、これらの成果に基づき修士論文の作成を進める。

【準備学習の内容】

実験・調査のデータ分析に必要な統計的知識を習得しておく。

【課題に対するフィードバック】

報告・発表の際に適宜コメントする。

【成績評価】

講義中の討論内容および研究成果に基づいて評価する。

【テキスト】

初回の講義時に受講生との話し合いで決める。

【参考文献】

田尾雅夫『組織行動の社会心理学』北大路書房 2001年
森敏昭・吉田寿夫『心理学のためのデータ解析テクニカルブック』北大路書房 1990年

行動意思決定論特殊講義 2単位

鈴木 修司

【テーマ】

意思決定に関する心理学的諸問題の把握と理解

【授業の到達目標】

意思決定に関する心理学的研究を包括的に理解する。

【授業概要】

意思決定はヒトがおこなっているすべての行動に関わっており、そのため数多くの分野で研究されている。本講義では、心理学の実験的手法を用いて明らかになってきた意思決定の現象とそれを説明するために提唱されてきた理論の理解を目指す。

【授業計画】

- 第1回 行動意思決定論概説
- 第2回 意思決定に関する合理性
- 第3回 認知機能と意思決定
- 第4回 規範的モデルと記述的モデルの比較検討
- 第5回 ヒューリスティックの妥当性と限界に関する検討
- 第6回 確率判断を巡る問題
- 第7回 記述普遍性に関する検討
- 第8回 手続き普遍性に関する検討
- 第9回 リスク状況とリスクレス状況の比較
- 第10回 異時間選択に関する現象と仮説の検討
- 第11回 意思決定における感情の影響
- 第12回 意思決定に正当性や理由を求めることの影響
- 第13回 価値、効用、満足感とは何か？
- 第14回 意思決定の普遍性と領域固有性
- 第15回 意思決定研究の方向性と今後

【準備学習の内容】

指定された文献を読み、その内容を理解する。不明点や疑問点がある場合には、自分の考えをまとめ、講義中に質問できるように準備すること。

【課題に対するフィードバック】

報告・発表の際に適宜コメントする。

【テキスト】

特に指定しない。受講生との話し合いを経て、決定する。

【参考文献】

講義内で適宜、指定する。

【成績評価】

平常点をもっておこなう。

【その他】

特になし。

行動意思決定論特殊講義演習Ⅰ 4単位
行動意思決定論特殊講義演習Ⅱ 4単位
論文指導Ⅰ/論文指導Ⅱ 2単位/2単位
鈴木修司

【テーマ】

意思決定に関する心理学的問題の学術的検討

人間が実際におこなっている様々な場面での意思決定について検討する。そのため、意思決定に関する予備的知識は十分に備わっていることが前提となる。意思決定に限らず、行動には複数の要因が関与していることが多い。それらを多角的に理解し、そのメカニズムを把握する。

意思決定に関する文献購読以外にも、実験や調査に必要な知識についても習得する。すなわち、実験計画法や質問紙作製法、統計的分析法などである。先行研究の知見を批判的に検討することにより、自分の研究を行う際に必要な思考法を身につけることを期待している。併せて修士論文作成へ向けて指導を行う。

【授業の到達目標】

受講生が各自の研究を進め、修士論文を完成させる。

【準備学習の内容】

修士論文の作成には、各自の仮説を設定し、その検証を行うことが必要である。そのための情報収集、研究計画の立案、調査や実験の実施などが、すべて準備学習となる。準備は受講生が主体的に進めること。

【課題に対するフィードバック】

報告・発表の際に適宜コメントする。

学習心理学特殊講義 2単位

佐藤 淳

【テーマ】

知識の獲得過程に関する心理学的問題の把握

【授業の到達目標】

1. 推論プロセスに関する基礎的な心理学的知識を修得する。
2. 知識不適用のメカニズムに関する従来の知見を理解する。
3. 知識不適用のメカニズムに関する新たな知見を理解する。

【授業概要】

抽象性の高い知識が日常的問題解決場面で必ずしも十分に利用されないことは、知識の獲得とその適用のプロセスを探求する心理学領域において、従来から大きな問題と認識されてきた。これまでの諸研究はその理由として「素朴概念」の存在を主張してきたが、近年ではこの見解によって説明することの難しい反応傾向があるとの指摘もある。そこで本講義では、このような傾向を有する知識獲得の様相を中心に取上げて、知識不適用のメカニズムの説明に新たな見解を加えることを試みる。

【授業計画】

- 第1回：人間の推論プロセスについて(1) 帰納的推論
- 第2回：人間の推論プロセスについて(2) 演繹的推論
- 第3回：人間の推論プロセスについて(3) 類推
- 第4回：素朴概念の形成について(1) 自然科学領域での知見
- 第5回：素朴概念の形成について(2) 社会科学領域での知見
- 第6回：素朴概念の形成について(3) 経済学領域での知見
- 第7回：素朴概念の組み換え方略について(1) 自然科学領域での知見
- 第8回：素朴概念の組み換え方略について(2) 社会科学領域での知見
- 第9回：素朴概念の組み換え方略について(3) 経済学領域での知見
- 第10回：「判断の不確定性」について(1) 不確かな判断の様相
- 第11回：「判断の不確定性」について(2) 不確かな判断がなされる理由

第12回：「判断の不確定性」について(3) 「判断の不確定性」

第13回：「判断の不確定性」の低減方略について(1) 事例提示法の効果

第14回：「判断の不確定性」の低減方略について(2) 論理操作法の効果

第15回：「判断の不確定性」の低減方略について(3) 論理操作法の問題点

【準備学習の内容】

1. CiNii 等のサイトから学術論文を検索できるようにしておくこと。
2. 調査・実験の結果の理解に必要な統計的知識を身につけておくこと。
3. テキストのほか、関連する学術論文を抽出して読んでおくこと。

【課題に対するフィードバック】

報告・発表の際に適宜コメントする。

【成績評価】

講義終了後、理解のレベルを問う口頭試問(100%)を実施して評価を行う。

【テキスト】

佐藤淳「法則の適用を阻む『判断の不確定性』とその低減方略」東北大学出版会

【参考文献】

麻柄啓一編「学習者の誤った知識をどう修正するか」東北大学出版会

麻柄啓一・進藤聡彦「社会科領域における学習者の不十分な認識とその修正」東北大学出版会

【その他】

講義は履修者の報告に担当者が解説を加えて討論を行う形で実施する。

学習心理学特殊講義演習Ⅰ 4単位
学習心理学特殊講義演習Ⅱ 4単位
論文指導Ⅰ/論文指導Ⅱ 2単位/2単位

佐藤 淳

【テーマ】

知識の獲得過程に関する心理学的問題の学術的検討

【授業の到達目標】

1. 推論の不全について新たな発見を行わせる。
2. 推論の不全を修正する方略の開発を実証的に行わせる。
3. 人間の推論に関する修士論文を作成させる。

【授業概要】

ここでは、学習心理学特殊講義で講じた知識獲得過程に関する基礎的な知見の理解を踏まえて、日常的な問題解決における人間の推論の不全について新たな発見を行わせ、そのメカニズムの検討を経た上で具体的な修正方略の開発を実証的に行わせる。

【授業計画】

第1回～第10回：関連する先行研究の検討（論文の収集と講読）

第11回～第20回：推論の不全に関わる問題の発見と設定

第21回～第30回：研究仮説の導出

第31回～第35回：調査・実験の実施と分析1（中間発表）

第36回～第40回：調査・実験の実施と分析2（学会発表1）

第41回～第45回：調査・実験の実施と分析3（学会発表2）

第46回～第50回：結果にもとづいた討論と得られた知見のまとめ

第51回～第60回：修士論文の作成

【準備学習の内容】

1. 先行研究となる学術論文の収集を網羅的に行っておくこと。
2. 調査・実験の結果の分析に必要な統計的知識と手法を身につけておくこと。

【課題に対するフィードバック】

報告・発表の際に適宜コメントする。

【成績評価】

研究の進捗と研究成果の社会的な有用性の程度を勘案して総合的な評価を行う。

【テキスト】

とくに設定しない。

【参考文献】

その都度示唆する。

【その他】

主として履修者の研究計画に担当者が研究指導する形で進める。

発達心理学特殊講義

2 単位

小島 康次

【テーマ】

発達への文化心理学的アプローチ

【授業の到達目標】

心理学と経営学のコラボレーションの場として、文化がどのように機能するかを理解する。

【授業概要】

従来の心理学における比較文化研究は、人類学が伝統的にとってきた比較文化の手法をモデルとしたために、西欧中心の近代主義的な発想に囚われてきた。新しい文化心理学はそうした問題を克服し、人間を発達当初から文化の中でとらえる視座を導入することによって、人間を歴史-文化的な存在として位置づける。

【授業計画】

第1講：比較文化的方法による発達研究の成果と限界
第2講：歴史-文化的アプローチについて
第3講：比較文化研究から文化心理学への転換
第4講：個体発生への文化心理学的アプローチ
第5講：間主観性と協同的媒介活動
第6講：文化心理学における多水準の方法
第7講：制約とアフォーダンスによる行為の制御
第8講：歴史テキストの習得と専有概念
第9講：精神間機能における間主観性と他者性
第10講：対話機能によるテキスト分析
第11講：言葉のジャンルと社会的言語
第12講：社会文化的状況と媒介された行為
第13講：バフチンの発話分析法における多声性
第14講：社会文化的アプローチの危険性：専有と抵抗
第15講：エンゲストロームの拡張的発達研究について

【準備学習の内容】

事前に配布する資料（文献の抜粋，論文）を読み，自分なりの意見をもって授業に臨むこと。

【課題に対するフィードバック】

報告・発表の際に適宜コメントする。

【成績評価】

出席，授業中の発言，発表等，平常点による

【テキスト】

使用しない

【参考文献】

- ・コール，M.（天野清訳）文化心理学—発達・認知・活動への文化—歴史的アプローチ 新曜社
- ・ワーチ，J.V.（田島信元ほか訳）心の声 北大路書房
- ・ログフ，B.（當眞千賀子訳）文化的営みとしての発達—個人，世代，コミュニティ 新曜社
- ・田島信元（編）文化心理学 朝倉書店
- ・石黒広昭 社会文化的アプローチの実際—学習活動の理解と変革のエスノグラフィー 北大路書房

認知心理学特殊講義

2 単位

浅村 亮彦

【テーマ】

認知過程論概説

【授業の到達目標】

人間の認知過程に関する具体的な研究課題を定め，研究仮説を設定すること。

【授業概要】

人間の認知過程について深く理解することを目標とし，認知心理学の主な研究分野における研究成果と最新動向について概説する。具体的には，感覚・知覚，認知制御，記憶と知識，イメージの利用，空間認知，言語理解，思考，ヒューマン・エラーを取り上げ，各領域における研究とその成果について討論し，それらを通して認知心理学の方法論，モデル，研究動向に関する理解を深める。

【授業計画】

第1回 認知心理学の成立とその背景
第2回 認知心理学の研究対象と研究アプローチ
第3回 感覚・知覚の情報処理
第4回 認知の制御過程
第5回 記憶の形成過程
第6回 知識表象のモデル
第7回 イメージによる情報処理
第8回 空間の認知過程
第9回 言語理解に関する情報処理(1)：文字，単語，文の理解過程
第10回 言語理解に関する情報処理(2)：文章の理解過程
第11回 思考過程(1)：問題解決
第12回 思考過程(2)：推論
第13回 思考過程(3)：意思決定
第14回 ヒューマン・エラーに関わる認知過程
第15回 まとめ

【準備学習の内容】

人間の認知過程に関する研究動向を調べておくこと。

【課題に対するフィードバック】

報告・発表の際に適宜コメントする。

【テキスト】

指定しない。

【参考文献】

講義時に指示する。

【成績評価】

平常点およびレポート課題によって評価する。

【その他】

特になし

認知心理学特殊講義演習Ⅰ 4単位
認知心理学特殊講義演習Ⅱ 4単位
論文指導Ⅰ/論文指導Ⅱ 2単位/2単位

浅村亮彦

【授業の到達目標】

人間の認知過程に関する具体的な研究課題について、研究仮説を設定・検証し、その成果を修士論文としてまとめること。

【授業概要】

本演習のテーマは、「人間の認知過程に関する学術的研究」であり、人間の認知過程に関する具体的な研究テーマを定め、実験研究を通して研究テーマについて一定の研究成果を得ることが目標である。

記憶、言語理解、思考・問題解決、イメージの利用などの様々な認知過程の中から、具体的な研究テーマを設定し、関連する先行研究の読解、研究仮説の設定、研究計画の策定・実施、データ解析を行なう。これらの活動を通して修士論文作成に向けた指導を行なう。

【授業計画】

具体的な授業計画は下記の通りである。

1 年次

研究テーマの設定
先行研究の調査と読解
研究仮説の設定
予備研究の計画・準備・実施
予備研究結果の分析と問題点の整理

2 年次

研究の計画・準備・実施
研究結果の分析
仮説の検証と研究の総合的考察
修士論文の執筆

【準備学習の内容】

研究テーマに関する研究動向を調べ、先行研究を収集しておくこと。

【課題に対するフィードバック】

報告・発表の際に適宜コメントする。

【成績評価】

成績は討論、提出課題の内容、および研究成果によって総合的に評価する。

【テキスト】

テキストは指定しない。

【参考文献】

参考書は必要に応じて随時指示する。

心的障害マネジメント特殊講義 2単位

田村卓哉

【テーマ】

心理学的適応とその障害に関する諸問題の検討

【授業の到達目標】

- ・「適応」という概念の内容を理解する。
- ・「不適応」の様々なあり方を理解する。
- ・「適応」と「不適応」に関する心理学的なアプローチの多様性を理解する。
- ・適応改善に向けた様々な取り組みを理解する。

【授業概要】

人間が生きるということは、各人が生まれ持った諸条件、発達の過程で修得した様々な行動様式、そしてその時々に適応しなければならない環境からの要請が絡み合う複雑でダイナミックな過程であると考えることができる。本講義では、人間が内的・外的な諸条件を抱えながら、自らの適応を実現しようとするプロセスを、広義の「マネジメント」と捉える。そのような視点の下で、発達障害、脳障害、精神疾患をはじめとする様々な不適応の形態とそれに対する自らの対処および周囲からの働きかけに関する心理学的な諸問題を検討する。また、これらの検討内容とより一般的な経営学上の諸問題との関係についても考察する。

【授業計画】

- 第1回 オリエンテーション
- 第2回 適応とは何か
- 第3回 系統発生的適応と個体発生的適応
- 第4回 不適応
- 第5回 様々な心身の障害と軽度発達障害
- 第6回 生理学的アプローチ
- 第7回 心理学的アプローチ
- 第8回 社会科学的アプローチ
- 第9回 当事者研究
- 第10回 発達1（乳幼児期）
- 第11回 発達2（学童期）
- 第12回 発達3（青年期）
- 第13回 就労の問題
- 第14回 人間関係の調整
- 第15回 まとめ

【準備学習の内容】

講義内で使用する配付資料・テキストの該当箇所等に

ついて、事前に熟読し、指示された論点等について、他の参考資料等も参照しつつ、検討してこなければならない。

【課題に対するフィードバック】

報告・発表の際に適宜コメントする。

【テキスト】

複数の候補を提示した上で、受講者と相談の上、決定する。

【参考文献】

講義中に多数紹介する。

【成績評価】

平常点（課題報告・質疑応答の内容等）により評価する。

【その他】

特になし

心的障害マネジメント特殊講義演習Ⅰ 4単位
心的障害マネジメント特殊講義演習Ⅱ 4単位
論文指導Ⅰ/論文指導Ⅱ 2単位/2単位

田村卓哉

【テーマ】

発達障害児・者を含む人間の環境適応に関する学術的検討

【授業の到達目標】

- ・自らの問題関心を、心理学的な研究課題に落とし込む。
- ・実験計画法・統計的なデータ解析法等を理解する。
- ・調査・実験等に関する基本的な技法を修得する。
- ・科学的な論文執筆の基本を理解する。
- ・自ら新しい知見を生み出すための基本的な能力を修得する。

【授業概要】

本演習では、心的障害マネジメント特殊講義で論じた基礎知識の習得を前提として、人間が自己と状況の認知を通して、自らの適応を実現していく過程を心理学的に探求する方法の検討を行う。併せて、受講者自身の関心にも関連づけながら、修士論文作成に向けての指導も行う。

【授業計画】

1年次

1. 軽度発達障害をはじめとする様々な方々を対象とした研究論文の講読。特に、問題関心の立て方、実験・調査の立案方法、データ分析、統計的検定等に注目して、修士論文作成に資する基礎的な準備を行う。
2. 参加者の関心に基づき、先行研究の分析を行う。
3. 研究課題を明確化し、予備的な調査・実験を行う。
4. 本格的な調査・実験の立案・準備を行う。

2年次

1. 修士論文のテーマに応じた文献の検討と本格的な実験・調査を行う。
2. 修士論文の完成を目指して、必要な指導を行う。

【準備学習の内容】

演習の進行状況に応じて、様々な準備が必要となる。文献の検索と事前の読解、研究計画の検討、実験準備、データ分析、論文作成等、演習時間外の作業が多くなる。

【課題に対するフィードバック】

報告・発表の際に適宜コメントする。

【成績評価】

課題報告，討論内容等に基づき，総合的に評価する。

【テキスト】

受講者と相談の上，決定する。

【参考文献】

適宜，紹介する。

【その他】

特になし。

**医療組織の心理学
(組織心理特殊講義Ⅰ)****2 単位****増地 あゆみ****【テーマ】**

医療組織のマネジメントに関する心理学的観点からの考察

【授業の到達目標】

医療組織のマネジメントにともなう心理学的・組織心理学的問題に対して理解を深め，その実践的な解決策を見出すため，組織集団に関する心理学的知見を学ぶことを目標とする。

【授業概要】

講義前半では，組織心理学の主なトピックについて講義形式で学び，講義後半では，医療組織を研究対象とした調査報告の文献を講読する。

【授業計画】**1. 職場集団のダイナミクス**

第1回 職場集団に生じる諸現象

第2回 チーム構築とチーム・マネジメント

第3回 リーダーシップの理論①—特性アプローチと行動アプローチ

第4回 リーダーシップの理論②—状況即応アプローチ

第5回 リーダーシップの理論③—変革型リーダーシップ

2. 対人サービスとストレス

第6回 対人サービスに伴うストレスの理解

第7回 バーンアウト

第8回 ストレスの個人的要因

第9回 ストレスへの対処

第10回 職場のサポート

3. 医療組織を対象とした調査研究の概観

第11回 文献講読①—医療組織のマネジメントに関する調査研究

第12回 文献講読②—医療組織のチーム・マネジメントに関する調査研究

第13回 文献講読③—医療従事者のストレス調査研究

第14回 文献講読④—医療従事者のバーンアウトに関する調査研究

第15回 文献講読⑤—医療組織の職場サポートについての調査研究

【準備学習の内容】

心理学および組織心理学領域の基礎知識を確認しておくとともに、医療組織の現状について関心と問題意識を持ち、情報を得ておく。

【課題に対するフィードバック】

報告・発表の際に適宜コメントする。

【テキスト】

講義中に指示します。

【参考文献】

田尾 雅夫『看護マネジメントの理論—人的資源管理の立場から』医療文化社 2005年 2604円(税込)

【成績評価】

出席と講義中の報告に基づき評価します。

**医療機関の人的資源管理
(組織心理特殊講義II)****2単位****溝部佳代****【テーマ】**

医療機関の人的資源管理、とくに看護職のキャリア開発に関する研究

【授業の到達目標】

1. 毎回の講義で取り上げる、人的資源管理に関するテーマおよびキーワードに対して、自らの意見を述べるができる。
2. 医療機関における人的資源管理の現状と課題について、関心あるテーマに関して自ら調べ、他者に話題提供できる。

【授業概要】

組織は、経営目標を達成するためにヒト・モノ・金・情報を資源として、それらを効率的・経済的に活用することを目指す。医療機関においては、大規模集団である看護ケアに携わる人材の育成と活用は、医療サービスの質を確保する上で極めて重要である。本講義では、まず、組織における人的資源管理に関する基本的理解および働く個人のキャリア発達に関連する概念を整理する。そして、医療機関における人的資源管理、なかでも看護職の継続教育をテーマに、組織の目標と個人のニーズの統合を実現するキャリア開発について議論を深める。

【授業計画】

- 第1回 人と仕事の結びつき —雇用管理について(採用、配置と異動、キャリア管理など)
- 第2回 能力開発・人事考課・昇給・昇格をどのように結びつけるか —人事制度について
- 第3回 給与決定の仕組み —賃金管理について
- 第4回 育成・選抜・動機づけ —昇進管理について
- 第5回 労働時間制度と労働時間短縮の課題 —労働時間管理について
- 第6回 能力を高める意義と方法 —能力開発について
- 第7回 非正規従業員(パートタイマー、契約社員など)の活用 —非正規従業員について
- 第8回 ワーク・ライフ・バランスの実現 —福利厚生制度について
- 第9回 医療機関の人事労務管理 —文献抄読について
- 第10回 医療機関の人事労務管理とその課題(1)

- 第11回 医療機関の人事労務管理とその課題(2)
第12回 キャリアとは何か ―生涯発達心理学の視点から
第13回 キャリア論(1) ―目標指向型キャリア研究
第14回 キャリア論(2) ―目標探索型キャリア研究
第15回 キャリア形成をいかに行うか ―看護職のキャリア開発と継続教育, まとめ

【準備学習の内容】

1. テキストを事前に読み、授業に参加する。
2. 第10・11回では、文献抄読として予め関心テーマの論文の一つを選び、レジュメを作成する。また、当日は自らプレゼンを行う。

【課題に対するフィードバック】

報告・発表の際に適宜コメントする。

【テキスト】

佐藤博樹, 藤村博之, 八代充史: 新しい人事労務管理 第5版, 有斐閣, 2015.

【参考文献】

井部俊子, 中西睦子監修, 手島恵編集: 看護における人的資源活用論 (看護管理学習テキスト第4巻) 第2版, 日本看護協会出版会, 2011.

【成績評価】

レポートおよび授業への参加度を総合して評価する。

【その他】

特になし